

三協立山グループ

# CSR報告書2013

Sankyo-Tateyama Group  
Corporate Social Responsibility Report



## Contents

ごあいさつ .....	P.1 ~
[特集Ⅰ] 環境技術(Life with Green Technology) .....	P.3 ~
[特集Ⅱ] 復原の技(東京駅) .....	P.7 ~
CSR活動の推進 .....	P.9 ~
社会性報告 .....	P.15 ~
商品における取り組み .....	P.23 ~
環境への取り組み .....	P.29 ~
第三者意見 .....	P.44
三協立山概要 .....	P.45 ~

## 環境技術でひらく、豊かな暮らしに向けて

『Life with Green Technology』

わたしたちは、「環境技術でひらく、豊かな暮らし」をテーマに、グループの技術力を集結し、環境配慮型商品・素材・空間によって、新しい価値を創造し、人々の豊かな暮らしを実現する企業グループを目指しています。

2011年7月に掲げた「長期VISION-2020」に向け、「リフォーム事業」「非建材事業」「海外事業」の3つの成長戦略に、『環境技術』を成長ドライバーとして取り組み、事業活動を通して、環境調和をより進め、社会に貢献していきます。

## 環境保全活動を推進

わたしたちの事業は、アルミの皮膜工程や鋳造などで、たくさんのエネルギーと水を必要とします。また、エネルギー消費に伴うCO<sub>2</sub>の排出や産業廃棄物の排出などによって、環境に対して負荷を与えています。

その社会的責任として、わたしたちは製造工程の省エネ化やCO<sub>2</sub>の排出削減、廃棄物削減などに懸命に取り組み、中期環境目標を定めて環境保全活動を推進しています。さらに、環境配慮商品の開発にも積極的に取り組んでおり、断熱商品や太陽光利用商品、自然風利用商品などは、その拡販により、環境問題の解決と人々の豊かな暮らしづくりに貢献します。

## 森づくり活動をスタート

わたしたちが、最も重視する社会的な課題は、地球温暖化をはじめとした地球環境問題です。この世界共通の課題に、積極的に取り組み、持続可能な地球の未来に貢献していきます。

その取り組みの一環として、今年度より、森づくり活動をスタートします。CO<sub>2</sub>削減や水質保全などたくさんの恩恵を与えてくれる森林に対する感謝の気持ちを込めて、植樹や下草刈などの森林保全のボランティア活動を従業員とその家族で行います。三協立山グループの全従業員が、環境意識を高め、生物多様性の保全などを推進し、社会貢献活動に取り組んでいきます。

以上の施策について、このCSR報告書にまとめました。わたしたちのCSR活動は、まだまだ不十分な点が多々ありますが、その事業活動を通じ持続可能な社会の実現に少しでもお役に立てることで、みなさまからの信頼に応え続ける企業を目指します。

2013年 8月



代表取締役会長  
藤木 正和



代表取締役社長  
山下 清胤

## 森づくり活動をスタート

三協立山は、生物多様性の保護、CO<sub>2</sub>の削減および地域の自然保護活動に貢献することを目的に、2013年4月に高岡市と「森づくり活動に関する協定」に調印しました。

森づくり活動の内容は、高岡市の雑木林(市有地)3.5ヘクタールに、従業員とその家族で毎年500本程度の苗木を5年間植樹し、根踏みや下草刈りなどの維持管理を15年間継続して森づくり活動を推進するというものです。

今後、従業員やその家族の協力を得ながら森づくり活動を進め、自然保護および地域社会への貢献に努めていきます。



高橋高岡市長(左)と当社の藤木社長(現会長)(右)

## 経営理念と行動指針

三協立山グループは、創業の原点である「お客様」「地域社会」「社員」の三者が協力し、共栄するという協業の精神に基づいた経営理念のもと、健全な企業活動を通じて社会に貢献していくことが、私たちの使命であると考えています。

### 経営理念

お客様・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します。

私たちは

### 行動指針

#### お客様満足

- 1 常にお客様の視点に立ち、誠実に対応することで、信頼される存在であり続けます。

#### 価値創造

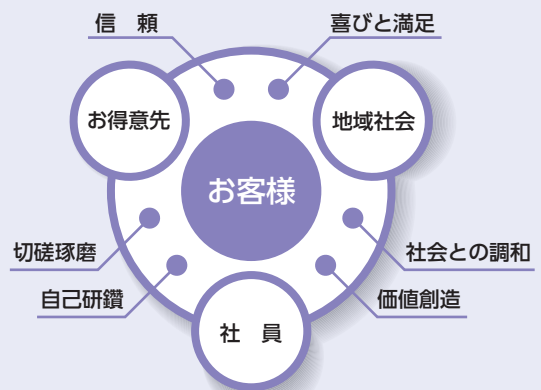
- 2 技術と知識の向上に努め、新たな製品の開発とサービスの提供にたゆまず挑戦し続けます。

#### 社会との調和

- 3 環境、地域社会、人との調和を考えて行動し、人と自然にやさしい企業であり続けます。

#### 自己研鑽

- 4 自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、働き甲斐のある企業風土を育みます。



## Life with Green Technology

～環境技術でひらく、豊かな暮らし～

“Green Technology=環境技術”とは、「地球環境の改善に関わるあらゆる技術」のこと。

例えば、省エネ、再生可能(自然)エネルギー使用、CO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出削減、  
水質汚染防止などの環境負荷低減のための活動に用いられるさまざまな技術の総称です。

三協立山グループの技術力を集結し、環境配慮型商品・素材・空間によって  
新しい価値を創造し、人々の豊かな暮らしを実現する企業グループへ。



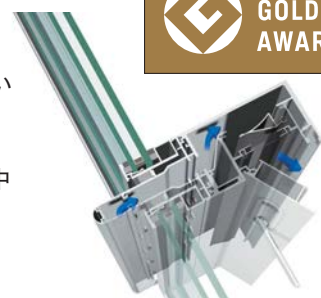
### 評価された当社の環境技術

「グッドデザイン金賞」(経済産業大臣賞)を受賞:「ARM-S@NAV」

スリム・機能美を踏襲したデザイン性と、風を一定量で取り入れる機能性が、高い評価を受けました。

グッドデザイン金賞(14件)は、事前に出された「グッドデザインベスト100」の中から、特別審査で選ばれたもの。

(※2012年度は審査対象3,132件のうち、1,108件がグッドデザイン賞を受賞)



環境技術1 自然の風を取り込む

「風力」「重力」で換気する自然換気システム  
「ARM-S@NAV」(アームスアットナビ)

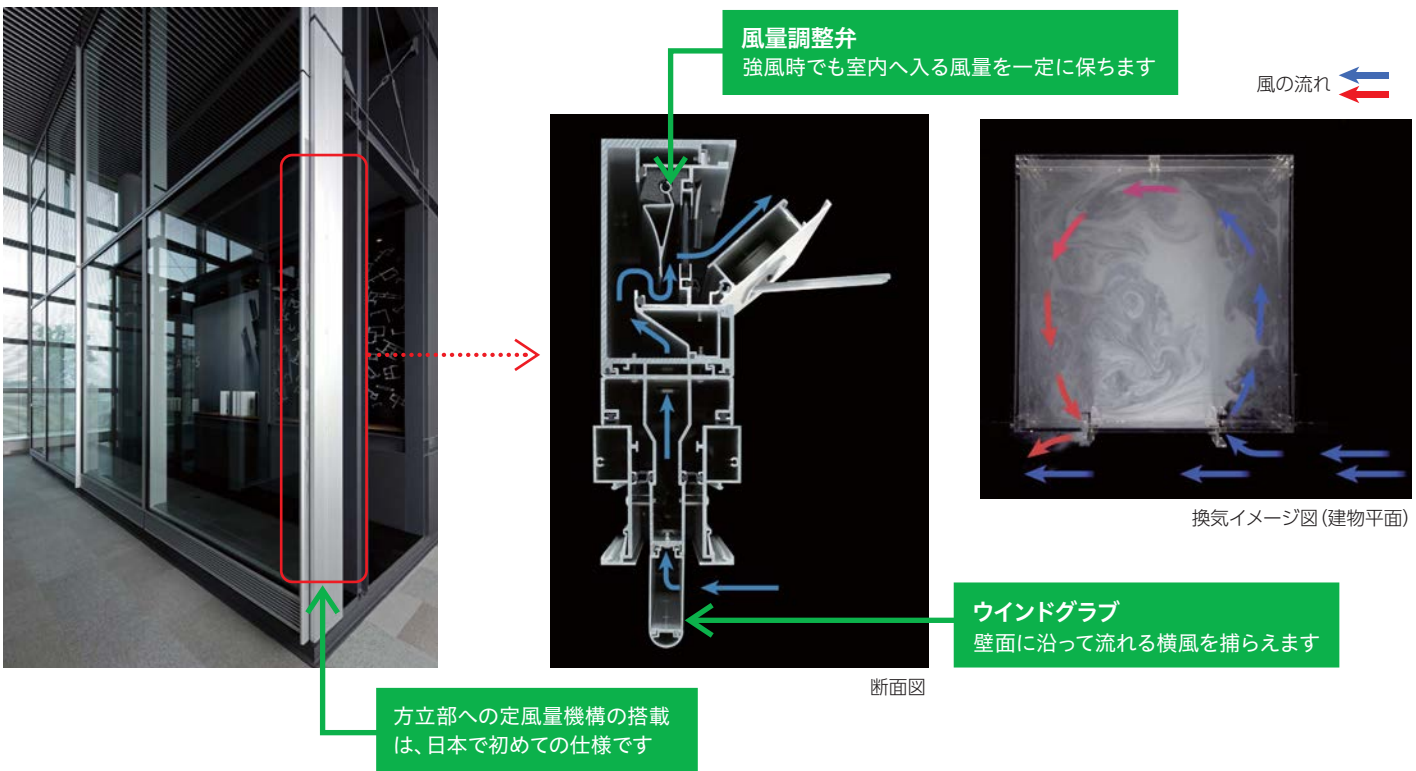
デザインと性能を高次元で両立させることを目指して開発された省エネルギーミサッシシステム「ARM-S」に、新たに「ARM-S@NAV」をラインナップしました。

ARM-S@NAVは、「風をつかむ」「風の道をつくる」「風を制御する」といった独自技術の組合せにより、自然の風を建物に取り込むとともに、「風力」「重力<sup>(※1)</sup>」を利用して効果的な換気を行うことができる自然換気システムです。「一面換気<sup>(※2)</sup>」+「定風量機構<sup>(※3)</sup>」の採用により、あらゆる建物の様々な条件下で自然の風を取り込むことができます。

- ※1. 重力：温度差によって生じる気圧差
- ※2. 一面換気：壁に沿って流れる風をとらえることを可能とした機構
- ※3. 定風量機構：室内へ入る風量をコントロールする機構



三協アルミ社 商品企画部 商品企画課  
朝内 文博



**ARM-S@NAV ご採用事例**

**社会福祉法人清風会「夢未来」**

社会福祉法人 清風会理事長  
小林 富彦様

『夢未来』は、知的障害者通所授産施設です。入所者には、施設内で一日楽しく過ごしてもらえるよう心配りをしています。

建物は、明るく開放感を出すように、ガラスで覆われたデザインとしました。室内は、サッシと換気装置が一体化したARM-S@NAVによって、すっきりとした印象です。風が強いときでも自然の風で換気ができるので、入所者には快適に過ごしていただいています。

環境技術2 太陽の光を活かす

高強度アルミニウム製太陽光発電パネル用架台「サンステージ」



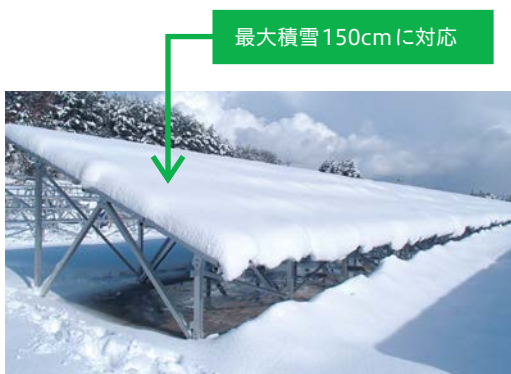
三協マテリアル社 営業部  
太陽光発電推進グループ  
竹林 裕之

「サンステージ」は、新開発の高強度アルミ合金を主要部材に使用した太陽光発電パネル用架台です。

この素材の採用によって、部材の強度が必要な積雪地域でも、アルミ製架台を使用した太陽光発電システム設置が可能になりました。また、一般的なアルミ材に比べても、部材重量が軽いため扱いやすく、施工性に優れています。

部材はオールアルミ製で、当社がアルミ建材で培った表面処理技術で高い耐食性を有し、海岸付近などの塩害地域でも長期にわたり美しい外観を保ちます。

このアルミ架台の特長を活かし、幅広い地域で太陽光発電の普及が進むことを期待しています。



最大積雪150cmに対応



一般的なアルミ材よりも30%の軽量化を実現(当社部材比較)

耐食性に優れ、長年の使用にも良好な外観を維持



「nanoe (ナノイー)」は水に包まれた微粒子イオンです。  
※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、  
パナソニック株式会社の商標です。

### 環境技術3 さわやかな空気をお届けする

#### 「ナノイー」で空気をクリーンアップ 「ナノイー」搭載内部額縁



三協アルミ社 商品開発部 商品開発二課  
長谷川 翠

商品化にあたって、社内外の女性に住まいの問題点を調査したところ、「玄関の靴やペットの臭いが気になる」「花粉やウイルスを室内に入れたくない」という声が多くありました。しかし、玄関には大きな空気清浄機を置くような場所がありません。そこで玄関スペースがせまくなならないよう、ドアの内部額縁に「ナノイー」ユニットを組み込みました。

この「ナノイー」搭載内部額縁は、パナソニック(株)との共同開発によるもので、業界初の商品です。

水に包まれた微粒子イオン「ナノイー」によって空気質を改善し、家族みんなに健やかな暮らしをお届けします。





## 特集 II 東京駅丸の内駅舎復原工事

# 日本の玄関口「東京駅」の歴史的復原工事に貢献

三協アルミのビル建材「東京駅専用ビル用サッシ」が、2012年10月に復原工事を終えグランドオープンした東京駅丸の内駅舎の全数に採用されました。

専用サッシは、過去の文献を基に時代を遡り創造し、現在の技術の粋を結集して製作しました。さらに色合いを当時の「木の風合い」に近づけるため、辰野金吾氏が設計し現存する「岩手銀行」を視察し、営業・生産部門が一体となって試行錯誤を行うなど、工事の基本方針に沿うよう復原作業を行いました。

日本の玄関口である「東京駅」は、大正3年(1914年)に設計家辰野金吾氏によって創建され、当時は赤レンガの斬新な西洋風デザインとして注目を集めました。その後、関東大震災では被害をま

ぬがれましたが、第2次世界大戦の空襲により3階を焼失、その姿を現代に伝えられずにいました。

国の重要文化財でもある同駅舎の復原工事は、平成19年(2007年)5月に、隣接する「東京ステーションホテル」「東京ステーションギャラリー」とあわせて着工し、

- ① 駅舎の姿を創建当時の姿に戻すこと
- ② 重要文化財としての価値を損なわず、修復すること
- ③ 今後100年先まで活用する施設となること

の基本方針で進められました。



分銅方式の  
上げ下げ窓



当時の木の  
風合いに  
近づけた意匠



東京駅の  
シンボル、  
ドーム屋根の  
丸窓





三協アルミ社  
関東ビル建材支店  
ビル建材部  
ビル建材二課  
**鍛冶 太郎**

現存する図面に基づいて工事前の姿に戻す「復元」とは異なり、今回は創建当時の窓も図面も残っていない中で、当時の状態を推し量りながら再現しなければならない「復原」でした。

「復原の基本方針」に沿って、重要文化財として価値を損なうことなく、大正3年に辰野金吾によって創建された当時の姿に再現することが当社の使命でした。

最近、歴史的価値のある建造物を保存しつつ高層化する工事が多いので、今回培った技術力を発揮し、社会に貢献していきます。

現存する図面も残っていない中で、歴史的価値のある建物の復原工事に挑む

この工事は、創建当時と同じ木の風合いを、アルミを用いて表現するという「復元」でした。この歴史的価値のある復原工事において、サッシという工業製品ではなく、重要文化財を作る意識で再現しています。

上げ下げ窓の復原は、まさしく手探りでした。全国に現存する、当時の建物の窓を詳しく調査した結果、意匠を変えずに再現できる、分銅方式という開閉機構を採用しました。また、当時の木の風合いという意匠を再現するため、何体もの実物大モックアップを作り、方向性を少しずつ決めていきました。



三協アルミ社  
ビル事業部 設計部  
特建設計課  
**宮本 裕士**



私たちは、新しい価値創造のため、知識や技術力の向上に絶えず挑戦しています。

そして、培った技術力を発揮し、製品やサービスの提供を通じて、豊かな社会、豊かな暮らしづくりに貢献していきます。



三協アルミ社  
ビル事業部 設計部  
設計技術課  
**金丸 悟**

この復原工事では、当時の姿に再現するだけでなく、性能面、特に最高レベルの遮音性能が求められました。

東京駅では2、3階をホテルの客室として使用します。しかし窓を開けて見上げれば、電車の車輪が見えるほど、厳しい騒音環境でもあります。ガラスや吸音材などを変えながら、何度もシミュレーションを繰り返し、最終的にはJIS規格での遮音性能最高値T-4等級を大幅に上回る、T-6等級相当を確保しました。

創建当時の意匠でありながら、現代の最高の技術をつぎ込んでいます。

百年先まで活用する施設であるために、高い性能・品質の要求に応える

当工事では、窓の意匠、特に色、表面の風合いには、過去に類を見ないほど厳しいものがありました。これを再現するため、数多くのミニチュアサンプルを作成し、納得がいくまで取り組みました。

これには、当工場の強みである、塗装から組立までの一貫生産体制が功を奏しました。とても厳しい要求でしたが、製造と販売一体でレベルアップにつながったと思います。

私たちは常にお客様満足を考え、品質には自信を持って納品させていただいています。この施設、この窓が100年先まで活用されるものと確信しています。



三協アルミ社  
新湊工場  
品質管理課  
**大代 俊二**

## CSR※活動の推進

三協立山グループは、CSRを経営の最重要課題と位置付け、CSRの推進により社会からの信頼確保に努めています。

※CSR：Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）

### CSR活動実績

CSRにかかわる活動は、関連部署で各々推進しています。2012年度の主な活動項目は、下表の通りです。2013年度も関連部署でCSR活動に取り組み、レベルアップを図っていきます。

CSR憲章	要素	活動項目	目標・方針など	実施事項	自己評価	該当ページ
健全な企業活動	CS	顧客満足向上活動の推進	CS意識向上と行動の徹底	CS単位活動に270チームがエントリーして活動を推進。優秀事例を表彰して社内公開し、水平展開を図る。	☀	P19
	顧客要望に応える商品の提供	使いやすさを追求した商品の提供	UD設計検討書、ユーザーチェックリストでの評価実施	UD設計検討書、UDユーザー評価会で25テーマについて評価を実施。	☀	P23～P24
	コンプライアンス	CSR・コンプライアンスの再徹底	CSR・コンプライアンスの理解度の向上	新任副専事、入社1年次、新入社員を対象に研修会を実施。理解できたと回答した割合約92%。	☀	P13
	コーポレートガバナンス	内部統制の有効性向上および効率化	新会社における内部統制体制整備推進 内部統制推進組織再構築検討	会社法内部統制システム基本方針を改定。 内部統制規程を制定し、内部統制委員会を設置。	☀	P10
	リスクマネジメント	リスク管理の推進	半期ごとの状況確認およびリスク委員会への定期的報告と経営計画への反映	半期ごとにリスク担当部門での対策進捗状況を確認し、結果を取締役会で報告。	☀	P10
	情報セキュリティ	お客様情報の管理の徹底	お客様情報漏出事件発生件数ゼロ	個人情報などの漏洩事故の発生無し。 e-ラーニングで新セキュリティ講座開設。	☀	P14
社会との調和	コミュニケーション	ステークホルダーとのコミュニケーションの充実	四半期決算に則した投資家対応の強化	機関投資家への戸別訪問や個人株主向け会社説明会を開催。四半期ごとの決算短信をホームページに掲載。	☀	P18
	社会貢献	社会貢献活動を重んずる企業風土の醸成	助成の推進	地元野球球団、日本海なべ祭りなどへ協賛金拠出。 東日本大震災遺児に対し、あしなが育英会へ寄付金拠出。	☀	P17
		地域に根ざした社会貢献活動の推進	積極的な参加	高岡市および射水市自衛消防訓練大会、H24年度富山県「交通安全チャレンジ1・2・3運動」などに参加。	☀	P16
環境との調和	環境保全	コスト削減につながる環境保全活動の推進	CO <sub>2</sub> 排出量を2011年度比 2012年度生産量原単位全体で1%削減	2012年度CO <sub>2</sub> 排出量原単位は、2011年度比2.1%削減。	☀	P33～P34
	環境商品・技術	環境配慮商品の開発推進	断熱性能向上商品、LCCO <sub>2</sub> 低減、換気・通風に配慮した商品開発の推進	断熱3商品、自然採風2商品、遮熱1商品開発。	☀	P25～P27
		省エネ・代替エネルギー対応商品の開発	LEDを光源として使用したサイン、什器の商品化展開	LEDを光源として使用した新型スタンドサイン、新型シート看板を商品化。	☀	P28
人間尊重	組織・人づくり	ダイバーシティの推進	障がい者雇用率2.0%以上	障がい者雇用率2.05%。	☀	P21
	安全衛生	心身の健康度の向上	定期健康診断受診率100%	定期健康診断受診率100%。	☀	P22

☀ 目標・方針など達成    ☁ 目標・方針など概ね達成    ☁ 目標・方針など未達成

### 研修会の開催

CSRについての理解を促進するため、2012年度は新任管理職、入社1年次・新入社員を対象に研修会を開催しました。研修は、「CSRの必要性」「CSRの捉え方」「当グループの取り組み状況」などを説明した後「ケーススタディ」を行い、皆でCSRについて考えることにより理解を深めています。



新入社員研修

## コーポレートガバナンス※(1)

三協立山グループは、株主およびその他ステークホルダー、そして社会からの信頼を築き、ともに発展していくことを経営の基本方針としており、そのために、コーポレートガバナンスの強化を図り、企業価値の向上に努めることが、経営の重要課題の一つと位置づけています。

具体的には、グループ経営計画および経営戦略を策定し、グループ会社の指導・監督を行うとともに、ステークホルダーへの説明責任を果たし、透明性を確保していくことが当社の重要な役割であると認識しています。また、当社が担う事業領域と機能の中で明確な事業責任を負い、市場競争力をより一層強化することでグループ全体の価値向上を図っていきます。

※コーポレートガバナンス：企業統治

### コーポレートガバナンス体制の状況

#### 取締役会、経営会議

取締役会は現在、社内取締役8名で構成され、毎月1回以上開催しています。当社グループおよび当社の経営に関する重要事項を決定するとともに、基本的な経営戦略の決定と経営全般の監督、グループ全体の経営課題および子会社各社の重要事項について審議を行っています。当社は、執行役員制・事業役員制を導入し、業務執行責任の明確化と意思決定の迅速化を図っています。また、事業年度に関する責任を明確にし、緊張感を持って経営にあたりるとともに、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するため、取締役および執行役員ならびに事業役員の任期を1年としています。取締役会は取締役社長が議長となり、取締役、監査役に加え、事業の状況把握を迅速に行うため、当社の社内カンパニーである三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社の各カンパニー社長が出席しています。

また、当社は取締役構成員のほか、各事業責任者および部門統括責任者で構成する経営会議を設置し、当社経営の基本方針に関する事項ならびに個別重要事項についての審議、決定と共有を行っています。

### 内部統制、リスク管理体制の状況

#### 内部統制システムの構築・運用、J-SOXへの対応

当社は、取締役会決議による「会社法内部統制システム基本方針」に従い、グループ全体で内部統制システムの充実を図っています。

当社および当社グループの実効性ある内部統制システムの構築を図るため、経営監査部が事務局となり、経営会議の中に内部統制委員会を設置し、諸施策の審議および実施状況の管理を行っています。また、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度(J-SOX)に対応するため、財務報告の信頼性を確保する内部統制の評価並びに整備を経営監査部が継続的に実施しています。

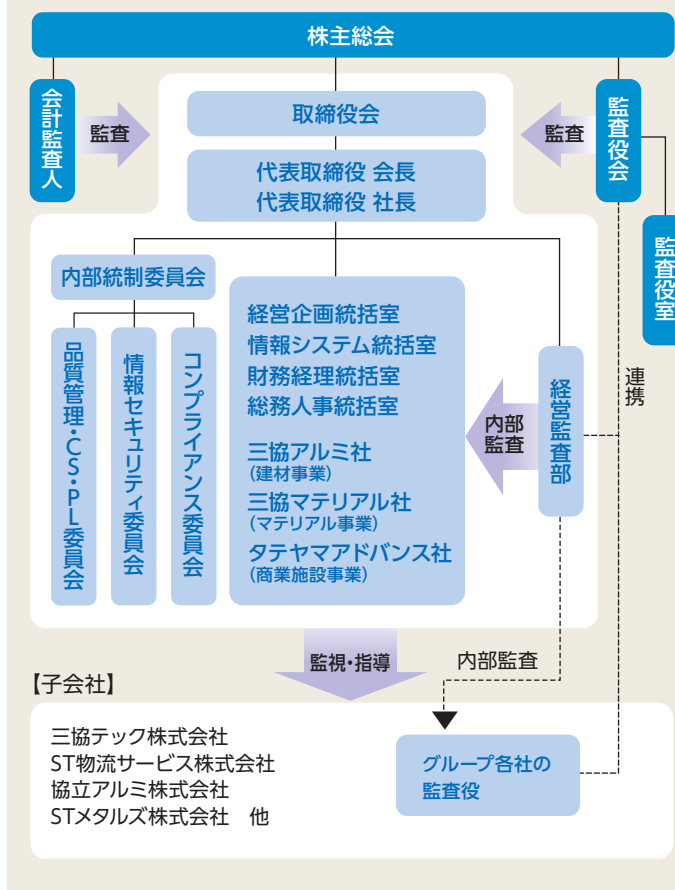
#### リスク管理の基本的考え方と体制の構築

当社は、リスク管理の実践を通じ、事業の継続・安定的発展を確保していくことをリスク管理の基本方針としています。

当社は、内部統制委員会にて、リスク管理の方針・方向性・計画・状況把握と是正措置などの審議を行い、当社グループ経営における一切の不確実性を管理しています。

また、当社に関わる不測事態の発生に対しては、グループで連携し、迅速かつ適切に対応策を講じるため、緊急時の組織体制を含めた危機管理規程および同マニュアルを整備し、損失ならびに損害を最小限に抑える体制を整えています。

### コーポレートガバナンス体制



### 監査役監査、内部監査の状況

当社は、監査役制度を採用しています。3名の社外監査役を含む5名の監査役は、取締役会などの重要な会議・委員会に出席し意見を述べるなど、業務執行の全般にわたって監督機能の充実に努めています。また監査役会は子会社の監査役と連携を図るとともに、経営監査部が子会社の内部監査を行うことで、グループ各社の業務運営に対する監査を定期的に実施しています。また、監査役室を設置し、監査役の職務全般を補助しています。

## コーポレートガバナンス(2)

### トピック

# 災害時の事業継続にむけて

当社は災害発生時において、従業員の生命・安全を確保するとともに、被害が想定されるグループ拠点の事業停止期間を最短とする事業継続計画(BCP※)の整備と対応を進めています。

※BCP: Business Continuity Plan(事業継続計画)

## 事業継続のための方針

当社は、地震、津波、洪水、液状化による被害を想定し、以下の基本方針に基づき、災害時の事業継続に向けた対応を行っています。

### ●基本方針

#### 人命の安全確保

グループ全従業員およびその家族、お客様の安全を確保するため、防災対策を進める。

#### 事業継続

災害による事業への影響を最小限にするための事前対策および有事の対応準備を行い、事業の早期復旧を図る。

#### 復旧・復興・支援

取引先、地域等への復旧支援を行う。

## 想定される被害

国、各自治体等の災害想定に基づく当社の被害を、以下のように想定しています。

### ●当社グループの被害想定

#### ①地震

- 耐震性の低い建物(資産)が数件あり、耐震化を推進中。
- 各拠点での事務什器固定、情報設備の免震を推進中。
- 特に地震発生確率が高い東名阪の従業員安全確保が必要。

#### ②津波

- サプライチェーンの上工程にある生産拠点の津波被害は無いものと想定される。
- 販売拠点1箇所の津波被害が想定される。  
(年度内に移転予定)

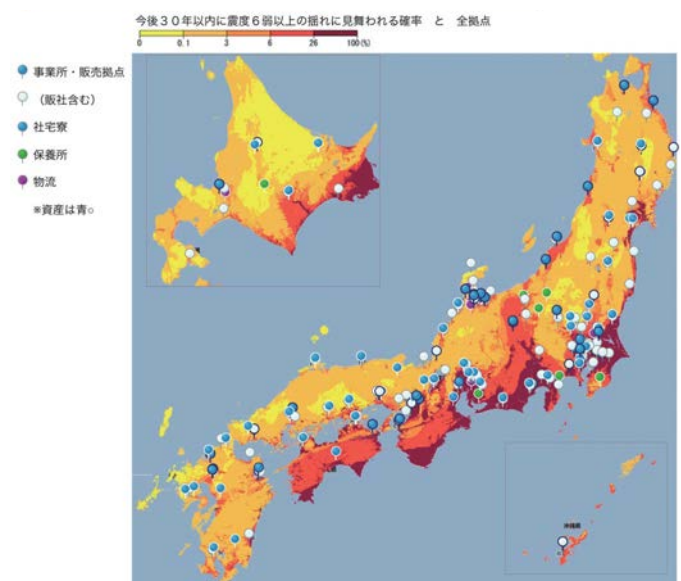
#### ③液状化

- 多くのグループ拠点で被害が想定される。
- サプライチェーンの上工程にある生産拠点の被害が想定される。

#### ④洪水

- 多くのグループ拠点で被害が想定される。
- サプライチェーンの上工程にある生産拠点の被害が想定され、有害物質流出、水蒸気爆発など、周辺地域の被害も想定される。

### ●地震発生確率と当社グループ拠点の関係



出典：地震ハザードステーション2012年版  
(文部科学省 地震調査研究推進本部)

## コーポレートガバナンス(3)

### トピック 災害時の事業継続にむけて

#### 事業継続に向けた主な対応

当社は事業継続計画に以下の対応を定め、災害時の生命安全確保、早期事業復旧に向けた体制整備を進めています。また、災害時の事業継続をより確かなものとするため、事業継続計画の改善を図っていきます。

#### 従業員安全確保・拠点整備

- 拠点別防災マニュアル等の整備と従業員啓発
- 避難・復旧対応・環境災害防止訓練の実施



- 安否確認システムによる被害情報収集と対策本部への発信体制整備



- 拠点内設備の防災対策
- 災害時に必要な物資の選定と拠点での物資備蓄



- 拠点の耐震化、移転
- 代替販売、生産の準備

#### システム・データ保管、通信確保

- 社外データセンター活用による、システム・データの被害最小化



- 災害対策本部対象拠点のテレビ会議システム設置と迅速な情報授受体制の整備



- 衛星携帯電話等、災害時に有効な通信機器の配備による意思決定ルートの確保



災害を想定した事前対応

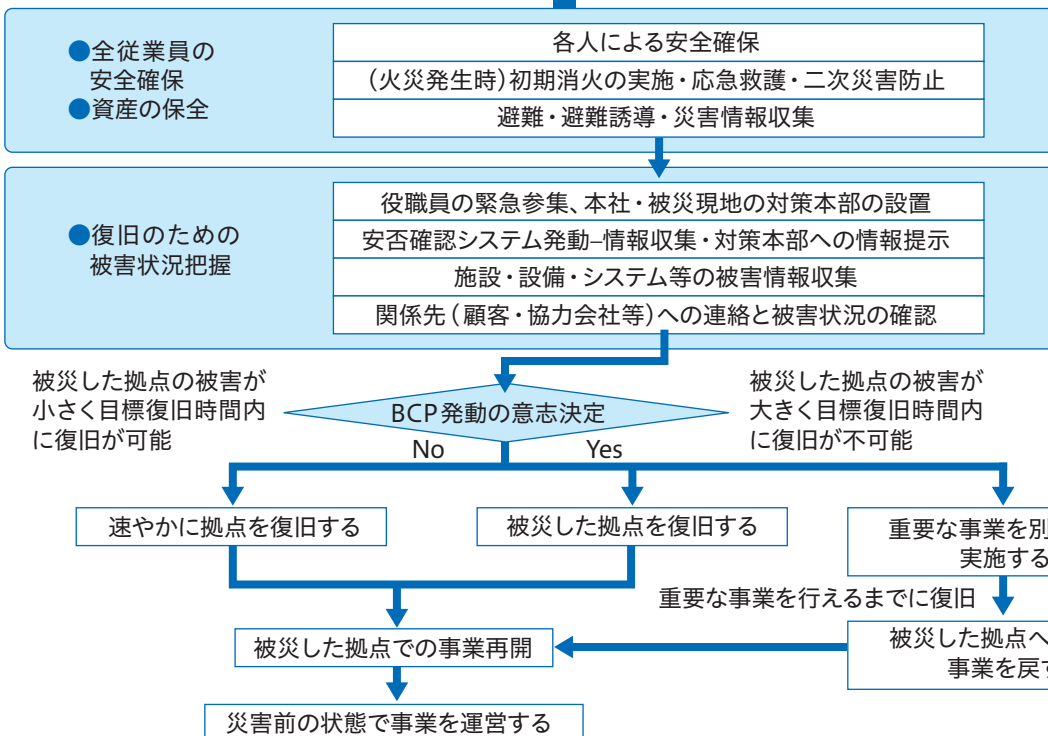
災害時に即時対応できる人・物・情報の体制整備

#### 事業継続

災害発生後の対応

初動対応

復旧・事業継続



## コンプライアンスの推進

コンプライアンスは、三協立山にとって経営の重要事項の一つであると捉え、推進専任部署を2004年7月に設置しました。三協立山のコンプライアンス推進担当役員を委員長とする「三協立山コンプライアンス委員会」を設け、コンプライアンス推進基本方針に基づき、活動を進めています。

### 【コンプライアンス推進 基本方針】

- ① 全役職員が当社グループの社会的な使命と責任を認識し、法令・企業倫理・社内規程を誠実に遵守します。
- ② コンプライアンスに最大の価値を置き、利益とコンプライアンスが相反する場合には、コンプライアンスを優先させます。
- ③ 外部から不正・不当な要求がなされても、断固として拒否します。
- ④ グループ内でコンプライアンスに関する問題が生じた場合には、直ちにこれを是正します。

## 今年度活動報告

### 各種研修・教育活動の実施

2012年度は、2011年度に引き続き、営業業務を行ううえで必要となる法令知識の習得を目的とした営業管理者向け研修、新入社員研修、階層別の従業員を対象とした研修および支店全体を管理するうえで必要となる知識の習得を目的とした新任支店長研修を実施しました。

### インサイダー取引の規制

全管理職を対象に、インサイダー取引の規制に関する研修会を開催し、さらに管理職から各職場の従業員に内容を説明し、全従業員に周知しました。

また、自社株取引に関するポケットマニュアルを作成して全従業員に配布し、インサイダー取引防止に努めています。

### 三協立山コンプライアンス委員会 委員長のコメント

この委員会は、毎年4回(6月、9月、12月、3月)開催しており、2013年6月までに22回開催しました。コンプライアンスに関する年度活動計画とその実績、内部通報内容とその対応、従業員のコンプライアンス意識調査結果などについての報告と審議を行っています。

会社の経営理念を踏まえ、健全な企業活動を通じて企業の社会的責任を果たしていくため、今後ともコンプライアンスに関する取り組みを強力に推進していきます。



委員長 常務取締役 山田 浩司



階層別研修



インサイダー取引規制研修

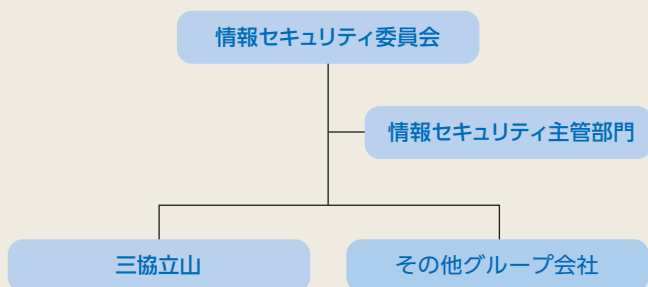


ポケットマニュアル

## 情報セキュリティの確保

三協立山グループでは、情報セキュリティの確保に関して、お客様の個人情報や取引情報の保護を最優先に取り組んでおり、従業員一人ひとりが情報セキュリティに対する適切な知識と行動を身に付けるよう実践しています。

### 情報セキュリティマネジメント体制(2013年6月1日より)



### Voice

#### セキュリティ対策について

情報流出事件の漏洩元の多くはパソコンですが、携帯電話にも個人情報が大量に保存されています。今回会社で使っている携帯電話を対象に、ソフト面・ハード面での情報漏洩対策を実施しました。この結果、従業員任せだった管理から、組織としての管理に

までレベルを上げることができ、情報漏洩リスクは、かなり低減されました。



三協立山株式会社  
システム企画部企画管理課  
光岡 知也

### 情報セキュリティマネジメント体制

三協立山では、情報システム担当役員を委員長とする「情報セキュリティ委員会」を設立し、グループ全体の活動状況・課題を把握するとともに対応方針を決定しています。また、同委員会での決定事項は、実行・推進部門である「情報セキュリティ主管部門」のもと、各部門に配置された約300名の「情報セキュリティ責任者」および「情報セキュリティ推進者」によって、全従業員に周知徹底を図っております。

※当グループでは、2012年度、重大なセキュリティ事故は、発生しておりません。

### 情報セキュリティ確保への主な施策

#### 1. 教育・啓発

2012年、「携帯電話からの情報漏洩の防止」を重点施策として取り組みました。利用者が守るべきルールを細則としてまとめ、紛失・盗難時に遠隔操作でロックやデータ消去を行えるツールを、全ての携帯電話機に導入しました。また利用ルールを周知徹底するために、利用者全員にeラーニングを受講してもらいました。

#### 2. 情報漏洩対策

社外に持ち出しするモバイルパソコンには、暗号化ソフトをインストールし、万が一盗難にあっても第三者に保存されているデータを盗み見されないよう対策をとっています。また近年大容量化が進みセキュリティリスクが高まっているUSBメモリについては、原則利用を禁止としています。

#### 3. アクセス権の適切な管理

社内からの情報流出リスクを低減するために、サーバ資源へアクセスする時に入力するユーザーIDや、アプリケーションを利用するために使うIDに関して、定期的な再検証(利用者と権限の確認)を行っています。

#### 4. 物理アクセス対策

ホストコンピュータが設置されているマシン室を「アクセス管理エリア」に指定し、部外者や不審人物などを入室させないよう、指紋認証電気錠による入出管理設備や監視カメラを設置しています。また情報センタービルには、赤外線センサー監視装置を設置することで、執務者不在時のセキュリティを強化しています。

## 地域社会とともに(1)

三協立山グループは、地域社会の一員として、社会貢献活動やコミュニケーション活動など、地域との共生に向けた活動に積極的に取り組んでいます。

### 地域社会の発展を祈って

#### 新湊大橋

臨海道路富山新港東西線(通称:新湊大橋)が2012年9月に開通しました。

この橋では、車道主径間の丸ビーム高欄、車道下の自転車歩行者道(名称「あいの風プロムナード」)の側面外壁パネル、およびそこに上がるエレベータ棟の外壁カーテンウォールに三協アルミ社の製品が採用されました。

「新湊大橋」の開通により、富山新港開港から40年以上にわたって分断された港の東西地域がつながりました。橋の開通が地域活性化につながることを期待します。



新湊大橋



丸ビーム高欄



あいの風プロムナード

※「あいの風プロムナード」は2013年6月に開通

#### JR大船渡線「BRT」

東日本大震災の復興需要で、三協アルミ社の通路シェルター「ファインロードS」がバス停留所上屋に採用されました。

津波被害により、JR大船渡線では線路が流され一部区間が不通でしたが、線路をバス専用路線に改良工事を行い今般3月2日より、代替運行「BRT」(バス高速輸送システム)として営業再開となりました。

今回のJR大船渡線「BRT」の復旧が足掛りとなり、震災復興が大きく前進することを心よりお祈り申し上げます。



JR大船渡線「BRT」 陸前矢作駅(上)、大船渡駅(下)

#### 三協アルミ台湾ショールーム

三協アルミ社が業務提携している台湾の大同アルミ工場内に、三協アルミのショールームがオープンしました。2013年3月に来賓約200人を迎え、オープニングイベントが開催されました。

三協アルミの蒲原社長より「三協アルミブランドの商品や技術を是非体感していただきたい。商品を通じて快適で豊かな暮らしの実現に貢献することで、台湾のお客様からも信頼・信用される企業を目指したい」と挨拶しました。



台湾ショールームのオープニングイベント



## 地域社会とともに(2)



現場指揮本部への災害状況報告



講評・挨拶



三協アルミの「ハピちゃんチーム」と「スマちゃんチーム」



経理・財務での体験

### 2012年度高岡市民ノーマイカーデー実施結果

「高岡市民ノーマイカーデー」実施日	第21回 2012.10.3	第22回 2013.4.3
参加対象者数	912人	921人
ノーマイカー実施者数	125人(14%)	98人(10.6%)
削減延べ往復距離数	1,652km	1,025km
削減CO <sub>2</sub> 排出量	382kg-CO <sub>2</sub>	237kg-CO <sub>2</sub>

## 地域社会の一員として

### 「砺波地域消防連絡会消防訓練」の実施

2012年10月、砺波地域消防連絡会主催の「砺波地域消防連絡会消防訓練」が、福野工場およびその周辺で実施されました。

訓練は、砺波市・小矢部市・南砺市の消防職員・消防団員および福野工場自衛消防隊の約120名、消防車両20台が参加するという大掛かりなものでした。

これからも、自衛消防隊の訓練継続と防火管理の徹底によって地域の安全確保に務めていきます。

### 「高岡ねがいみち駅伝」に出場

2013年4月、「第1回高岡ねがいみち駅伝」が開催され、当社および労働組合から6チームが出場しました。

同駅伝は、高岡大仏・高岡関野神社・射水神社の3つの縁をつなぐ、通称「願道」を通じて、高岡の魅力を発信しようと企画されたものです。

### 「インターンシップ」への受け入れ

当社では、毎年、学校などのインターンシップ事業に協力し、学生たちを受け入れています。(2012年度は高校から大学までの学生10名)

仕事とはどういうものなのか実際に体験することにより学んでいただけたものと思います。

### 「ノーマイカーデー」の実施

当グループは、2002年よりノーマイカーデー宣言事業所として県や市の実施運動に参画し、社員に理解と参加、協力の呼びかけを継続して行っています。(グループでは毎月第二水曜日をノーマイカーデーとして設定)

## 地域社会とともに(3)

### 社会貢献活動

#### 野球 BCリーグ公式戦「富山サンダーバース」

##### ● 三協立山グループ冠試合開催

当グループがオフィシャルスポンサーを務める「富山サンダーバース」のBCリーグ公式戦を、『震災遺児育英支援試合』として、2012年8月と2013年5月に開催しました。

この試合には、東日本大震災で被災し富山県に転居された方々や、高岡市内の少年野球チームなども招待しました。

##### ● 「あしなが育英会」へ寄付

震災遺児への継続的な支援として、2012年8月および2013年5月に開催した富山サンダーバース冠試合の当日入場者数に応じて、各20万円、合わせて40万円を「東日本大震災・津波遺児募金」として、「あしなが育英会」へ寄贈しました。

##### ● 富山サンダーバース「ドリームプロジェクト」招待券贈呈

2013年4月、富山サンダーバース球団代表と高岡市役所を訪問し、前期ホームゲームの無料招待券を贈呈しました。

これは、当社が協賛する富山サンダーバース「ドリームプロジェクト」の一環で、富山県内の小中学生を招待するものです。招待券は各市町村の教育委員会を通じて各学校に配布され、当社は中学生約30,000人分を寄贈しました。

#### 「クリーン作戦」の実施

2013年4月、高岡工場にて、地元地域への社会貢献ならびに構内美化を目的として、「クリーン作戦」を実施しました。

従業員や労働組合役員など約35名が参加し、工場周辺道路沿線と側溝、高岡工場構内の清掃を行いました。

#### 「献血」の実施

当グループは、毎年富山県赤十字血液センターの献血活動に協力しています。(年3回 4、8、12月に実施)

さまざまな社会貢献活動の中でも、献血は身近で人の生命に関わる大切な問題であると認識しており、従業員に対して自主的かつ積極的な参加を呼びかけています。



声援を送る観客席



「あしなが育英会」へ目録を贈呈



高岡市へ招待券を贈呈



收拾したごみの選別

#### 2012年度献血実績

	夏の献血 2012年8月	年末の献血 2012年12月	春の献血 2013年4月
受付者数	301名	252名	305名
献血者数	250名	219名	259名
200ml献血者数	23名	19名	24名
400ml献血者数	227名	200名	235名

## 株主とともに

三協立山は、グループ全体の経営基盤の強化と収益力向上によって、継続的な企業価値の向上を図り、株主の皆様のご期待に応えていきたいと考えています。



個人投資家向け会社説明会

## IR※活動

IR活動は、広報・IR部が担当しており、株主、投資家をはじめとするあらゆるステークホルダーの皆様に、当グループの企業活動に対する理解を促進し、適正に評価していただくために、企業情報を適時・適切に開示しています。具体的には、当社ホームページ上に決算概要をタイムリーに掲載するとともに、関連部署と連携して社外への各種重要情報の開示を行うなど、経営の透明性と迅速性で公平・正確な情報開示に努めています。

2012年度は、機関投資家・アナリストに対し、スモールミーティング開催をはじめ、国内の主要な機関投資家を訪問し、活発な意見交換を行いました。また、証券会社主催の個人株主向けセミナーに参画し、事業概要、長期VISION-2020などを説明し、当社理解促進に努めました。

投資家およびアナリストの皆様からいただいたご意見や助言などは、適宜、経営幹部にフィードバックし、今後の経営に活かすように努めています。

※IR (Investor Relations、インベスター・リレーションズ)：企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公平、継続して提供する活動全般

## 情報開示の考え方

当社は、金融商品取引法などの諸法令ならびに東京証券取引所の定める有価証券上場規程(以下「上場規程」という)に準拠した情報開示に努めるほか、当社をより理解していただくために有効と思われる情報についても、迅速に開示します。

なお、上場規程に該当する情報は、同規程に従い、東京証券取引所の提供するTDnet(適時開示情報伝達システム)を通じて開示します。上場規程などに該当しない情報についても、投資判断に影響を及ぼすと思われる場合は、その重要度および緊急性に応じて、適宜、適切な方法で速やかに開示します。

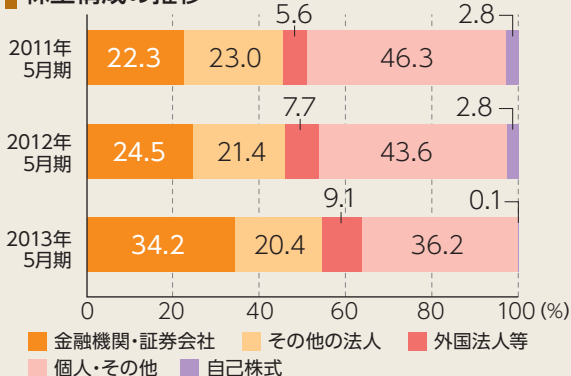
### 株主構成 (2013年5月31日現在)

発行可能株式総数 150,000,000株  
発行済株式の総数 31,554,629株  
株主数 24,214名

### 所有者別株式分布状況 (2013年5月期末)

区分	株式数	比率
政府・地方公共団体	0	0.0
金融機関	10,411,168	33.0
証券会社	381,616	1.2
その他の法人	6,440,625	20.4
外国法人等	2,877,495	9.1
個人・その他	11,424,642	36.2
自己株式	19,083	0.1
計	31,554,629	100.0

### 株主構成の推移



## お客様とともに(1)

三協立山グループでは、お客様への喜びと満足の提供こそが、豊かな暮らしの実現に貢献できるものと認識し、従業員一人ひとりが「CS※ポリシー」の実践を心がけ、日々の業務に取り組んでいます。

※CS(Customer Satisfaction) = 顧客満足

### お客様にご満足いただくために

三協立山は、信用と信頼を大切にしています。信用と信頼は、日頃の企業活動において消費者様やお得意様を含めた全てのお客様の期待に応えることで、少しずつ醸成されていくものと認識しています。そして、企業活動の一つひとつがお客様満足につながることを念頭において、従業員一人ひとりが日々の業務に取り組んでいます。

顧客満足に関する活動方針は、「顧客満足向上委員会(CS委員会)」を通じて、品質向上に関する活動方針は「全社品質管理委員会」を通じて決定されて取り組んでいます。当社のカンパニー部門の三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社と、グループ内のST物流サービスとの間では定例の連絡会を設け、品質の向上に関する活動の連携を図っています。また、消費者様に安心してご使用頂けるよう、製品の安全に関わるPL(製造物責任)対応として、「PL委員会」を設置し、前出の2つの委員会と連携しつつ、信用と信頼の維持向上に努めています。

※体制図は、P.10「コーポレートガバナンス体制」参照

### CSポリシー

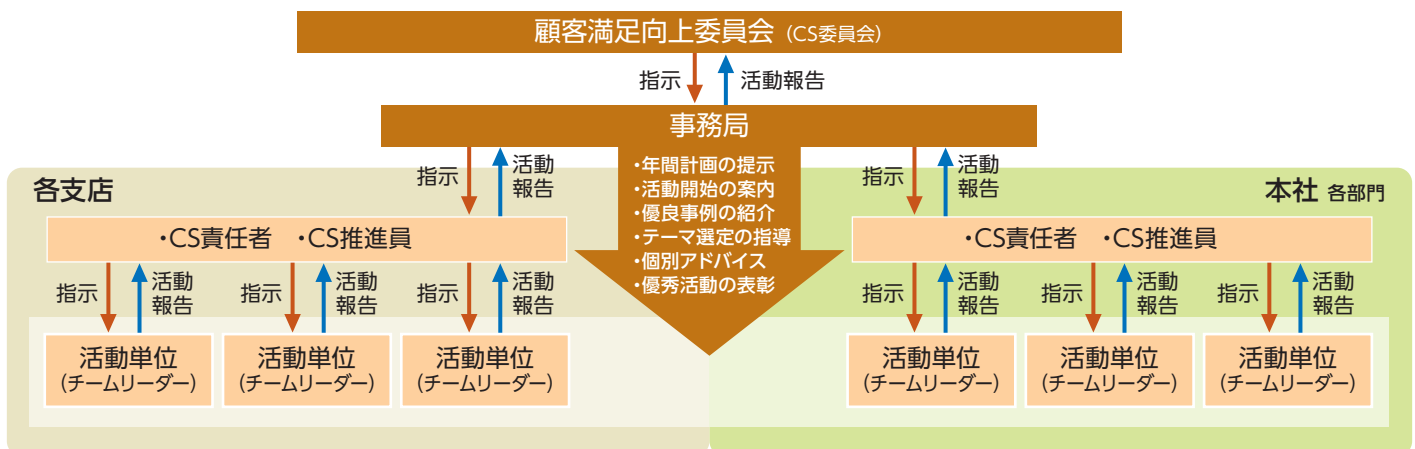
CSポリシーは、経営理念、行動指針とともに携帯用カードとして当グループ内に勤務する役員・社員・派遣社員など全員に配布され、個人個人の指針としています。

- お客様満足を第一とし、“常にお客様の立場・視点で考え行動”しよう。
- お客様の意見に耳を傾け、“期待や問題点をしっかりと把握”しよう。
- お客様の満足実現に向け、“創意・工夫で改善、提案”しよう。
- お客様の“満足こそが仕事の成果”であると心がけよう。
- お客様の満足を、“共にわかち合えることに感謝”しよう。

私たちは常にこの指針に従い、  
日常の企業活動の中でお客様満足の  
向上に努めていきます。

### CS活動状況

当社では、「CSポリシー」の実践を目的に「CS単位活動」を行っています。この活動は、日々の業務をお客様の立場・視点で考え行動し、CSを実践していく活動です。2002年より開始し、2012年度は270単位(チーム)が参加しました。この取り組みを通じて、日頃の業務の中に「CSポリシー」をより一層根付かせるとともに、グループ内へのベストプラクティス(優秀事例)の水平展開を図ることで、「お客様満足」を目指します。



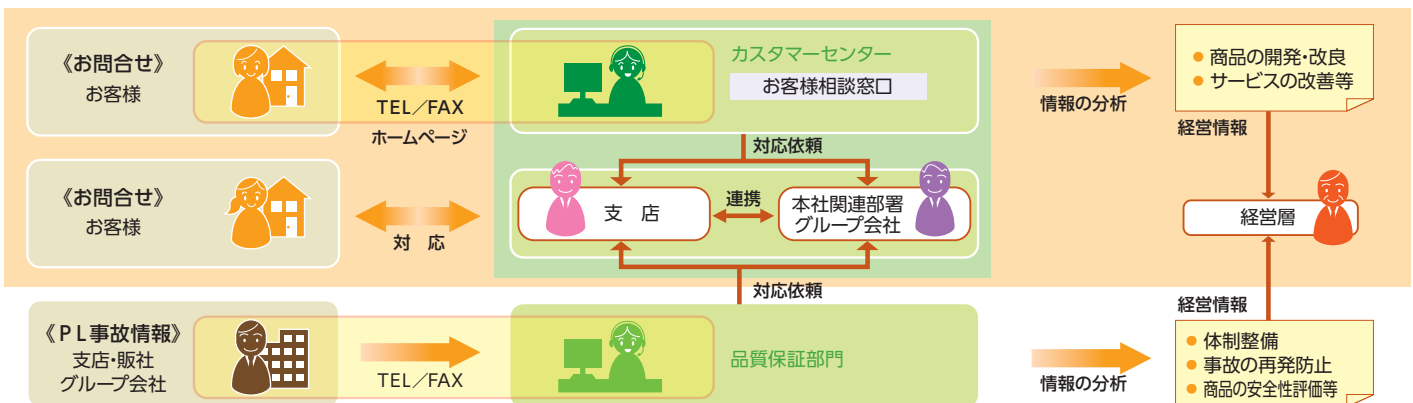
## お客様とともに(2)

### お客様の声を生かすために

三協立山は、消費者様やお得意様を含めたお客様からの相談窓口としてカスタマーセンターを設置し、電話、FAX、ホームページなどにより、お問合せをいただけるようにしています。相談窓口では、会社を代表する窓口として、信用と信頼を担っているという自覚をもち、適切な対応を心がけ、丁寧かつ迅速な対応に努めています。

また、「お客様満足第一」で、一つひとつのお問合せを真摯に受け止め、日々お客様から寄せられる「お客様の声」を系統立てて整理・分類し、さまざまな角度から分析を行いつつ、課題を抽出しています。これらの課題を経営情報として経営トップや関係部署へフィードバックを行い、商品の開発・改良およびサービスの改善などに役立てています。「消費者満足」「顧客満足」の更なる向上を目指し、ホームページやカタログなどの情報提供ツールをよりわかりやすく、ニーズに応えられる情報となるよう改善に努めています。

### ●お客様情報の処理フロー



### 安心してご使用していただくために

当社は、製品の安全性確保とおお客様の安全確保に関する法令や品質に関する基準を遵守しています。開発段階では、リスクレベルの「見える化」による安全性の評価(R-Map※を用いたリスク評価)を行い、使う人の立場に立って、より使いやすい、安全な商品作りに取り組んでいます。また、取扱説明書や注意ラベルに限らず、カタログの記載内容については、不正競争防止法、消費者基本法などの各種法規に準拠しているかどうか、さらに、所属工業会のガイドラインに沿っているかどうかについて事前にチェックして、お客様に必要な情報を明確かつ平易に表示するよう取り組んでいます。

当社製品に関わる事故が発生した場合、速やかに必要な関連情報を収集して、お客様の視点に立った迅速かつ適切な事故処理を行うとともに、重大な製品事故については、消費生活用製品安全法などの法令に基づいて、所轄官庁へ報告を行います。

また、事故の原因究明と再発防止を徹底し、製品の安全確保に努めていきます。

※R-Map: 危害の程度と発生頻度から、リスクの大きさを評価する手法の一つ。

### 三協アルミ名古屋ショールーム

名古屋ショールームは2012年6月、展示商品を充実しリニューアルオープンしました。サッシ・玄関・室内建材などの住宅建材商品から、門扉・フェンスなどのエクステリア商品の品揃えで、お客様の家づくりのお手伝いをさせていただきます。

住所: 愛知県長久手市長配3-606

フリーダイヤル: 0800-2000776

営業時間: 10:00 ~ 17:00

定休日: 水曜日、年末年始、ゴールデンウィーク、夏期商品入替等により臨時休業する場合があります。



<http://alumi.st-grp.co.jp/shr/nagoya/index.html>

## 従業員とともに(1)

三協立山は、お客様へ喜びと満足を提供するために、新しい価値を創造できる人材の育成と、安全で健全な働きやすい職場づくりを目指しています。

### ダイバーシティの推進

ダイバーシティ(多様性)とは、企業で人種や国籍、性別、年齢を問わずに人材を活用するということです。(出典:大辞泉)

多様性尊重の風土作りに向けて、2007年度に発足した専任部署(多様性推進課)が中心となって、さまざまな取り組みを行っています。

### 女性従業員の活躍推進

2008年度より、女性従業員のキャリア支援研修を行っています。今年度は、これまでの女性従業員対象の研修に加えて管理職を対象に、「女性従業員の自律的キャリア形成をサポートする」ことを目的とした『キャリア形成支援者研修』を行いました。(受講者20名)

### 厚生労働省より、均等・両立企業表彰 「均等推進企業部門 富山県労働局長奨励賞」を受賞

この表彰は、女性の能力を発揮させるための積極的な取り組み(ポジティブ・アクション)と、女性労働者のみならず、全ての労働者が、能力を十分に発揮できる職場環境整備に向けた取り組みが認められ、受賞しました。

### 障がい者雇用と活用

障がい者雇用については、企業の社会的責任として、法定雇用率(1.8%)を超えて雇用してきました。2013年4月からは、法定雇用率は2.0%になりましたので、今後も雇用拡大と活用を進めていきます。

### ワーク・ライフ・バランスの推進

#### 労使協議会の開催

従業員の健康保持促進と働きやすい職場環境づくりを目的として、毎月、支店、工場、または職場単位で、労使による『職場労使協議会』を開催しています。

会では主に、長時間労働の削減、および職場改善について労使で協議しています。

- ノー残業デイ(毎週水・金曜日)を設定し、実施しています。
- メモリアル(誕生日)休暇やフレックス休暇を計画的に取得し、1人当たり10日/年の有給休暇取得を目標に取り組んでいます。

### 新入社員の採用

企業の安定的な成長・発展に向け、新入社員の採用を行っています。本年採用した人材は「対人能力、好奇心、フットワークの軽さ、チャレンジ精神、忍耐力を備えた明るい学生」で、長期VISION-2020の達成を担う人材として採用活動を行いました。



キャリア形成支援者研修



表彰状と記念品

### 障がい者雇用率



九州支店労使協議会



入社式

## 従業員とともに(2)

### 遺児育英年金制度

遺児育英年金制度は従業員が在職中に死亡(または、高度の障がいとなり)退職した場合に、遺児(子供)に対して奨学資金を援助する制度です。この制度は従業員が安心して働くため労働組合と共同で行っている福利厚生施策で、子供が18歳(高校卒業)になるまで援助するものです。

### 従業員満足度調査

職場の風通しの向上などを目的に、毎年「従業員満足度調査」を実施しています。今年度は、三協立山として、主要4社の統合を機会に、調査項目を再考し、実施しました。総合満足度は、昨年より0.41ポイント上昇し、3.54点(5点満点)となり3年連続して上昇しています。

結果は社内のポータルサイトに公開しています。

## 労働安全衛生について

### 基本理念

当グループは、安全衛生の確保は企業の社会的責任であることの認識を高め、働く人一人ひとり、けがや病気に「させない」「起こさせない」という強い信念と愛情のもと、職場の危険源低減活動を進めています。また、働く源である元気なからだところの健康づくりにも積極的に取り組んでいます。

### 安全活動

リスクアセスメント※の継続実施により、災害防止対策を推進しています。また、新たな目で、危険箇所の抽出や改善を行うため、安全担当者、労働組合、グループ会社でチームを編成し、各工場を巡視して、労働災害の危険要因の芽を摘みとる活動を実施しています。

※危険の事前評価

### 健康活動

職場における健康診断は、従業員の健康状況を把握するための基本となる対策であり、疾病予防の早期発見に重要な意義があります。健康診断結果を基に、再受診の勧奨や保健指導などのフォローを行っています。特に近年、メタボリックシンドロームやその予備軍の従業員が増加しているので、保健指導により、正しい知識を知ってもらい、意識の高揚に努めています。

また、作業環境チェックを行い、従業員の健康障害を防ぐための適切な措置を講じています。

この他、長時間労働による健康障害の防止については、毎月、前月分の長時間労働者を把握し、時間外労働時間に応じて産業医による面接指導を実施しています。

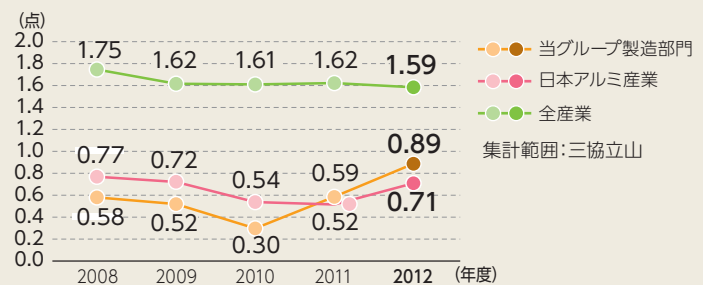
### 能力開発

業務遂行に必要なスキル向上に自ら進んで取り組む従業員のために、各種制度を設けています。公的免許・資格取得に対する報奨制度「ビジネスライセンス手当」や「通信教育制度」「社内eラーニング」といった自立的学習手段を提供するなど、従業員の自己啓発やキャリア形成をサポートしています。

### 階層別研修/早期マネジメント教育

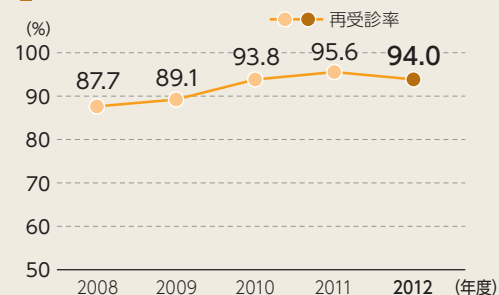
新入社員研修をはじめ、入社1年次、2年次、3年次のフォローアップと、また昇格のタイミングを捉えて、その段階で必要な知識とスキルの習得、業務マインドの向上を目的に階層別教育を実施しています。また、当社の持続的な成長・発展を図るために、次代の経営幹部や将来の管理職育成を目的とした早期マネジメント教育も実施しており、今後ますます力をいれていきます。

### 労働災害度数率



$$\text{労働災害度数率} = \frac{\text{休業災害件数} \times 100\text{万時間}}{\text{延べ労働時間}}$$

### 健康診断の再受診率



安全衛生意識の高揚を図るために、毎年グループ全社から標語を募集し、優秀作品を表彰しています。今年は3,626件の応募がありました。

『自分の健康 自分で管理 日頃の予防と心がけ』

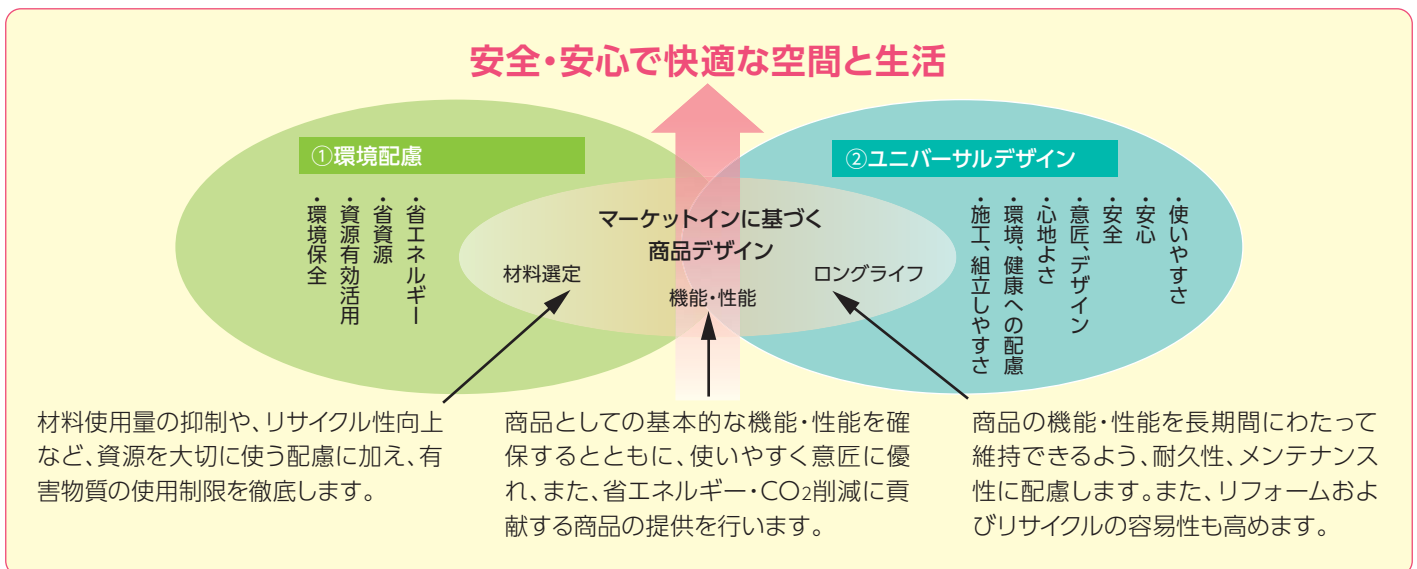
2012年度安全衛生標語入選作品

## 商品開発の基本姿勢(1)

三協立山は、商品・サービスの購買者のニーズを優先し、マーケットインをベースとした全体最適システムから生活視点で商品開発を行い、お客様の期待にお応えします。

### 商品開発理念

安全・安心で快適な空間と生活に寄与するために、全ての新規開発商品において、①環境配慮と②ユニバーサルデザイン(以下UD)を基本に、「材料選定」、「機能・性能」、「ロングライフ」の三つの要素を使う人の立場に配慮して盛り込み、お客様へご提案しています。



### 環境配慮の商品づくりについて

#### 環境配慮設計指針による商品開発

当社では、「環境配慮設計指針」を基本として商品開発を行っています。この中では、「省エネルギー」「省資源」「資源有効活用」「環境保全」の4つのコンセプトに基づき、材料選定、生産、流通、施工、使用から解体・廃棄までのライフサイクルでの環境負荷低減に努めています。

#### ●4つのコンセプト

##### 省エネルギー

- 断熱
- 遮熱
- 省電力
- 自然エネルギー利用

##### 省資源

- リデュース
- 長寿命
- メンテナンス性

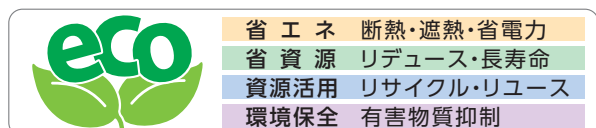
##### 資源有効活用

- リユース
- リサイクル

##### 環境保全

- 有害物質抑制
- 温室効果ガス

#### ●環境配慮商品マーク



#### 環境配慮商品売上比率が83%に

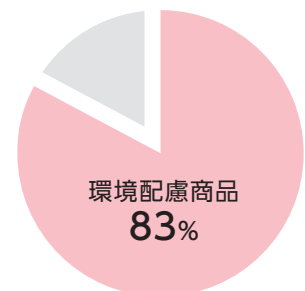
商品開発時には、環境配慮設計指針に基づいた「環境配慮設計チェックリスト」を用いて、全ての開発商品について、環境への影響を評価しています。

従来同等商品より環境への負荷が少なくなるよう目標を定め、総合点数が目標を上回った商品を『環境配慮商品』と定めています。

#### ●環境配慮商品売上比率

三協アルミの2012年度の環境配慮商品売上比率は、83%になりました。

※自社開発商品のうち「環境配慮商品」が売上に占める割合





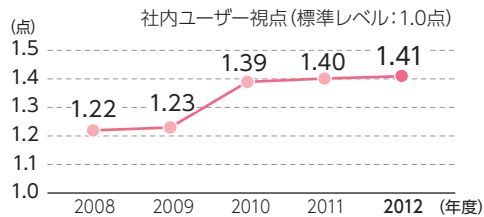
## 商品開発の基本姿勢(2)

### ユニバーサルデザインの取り組み

#### UDユーザー評価会

UDユーザー評価会とは、開発商品の試作確認時にユーザー視点での商品評価を行うものです。ユーザー側の声を商品開発へフィードバックすることで、書類審査や開発関係者による検討だけでは気が付かない問題点を掘り起こします。

#### UDユーザー評価点数



※2007年度より本格的に新商品へのUDの取り組みを実施し、評価点数は年々高くなっています。

### <トピック 女性視点での商品開発>

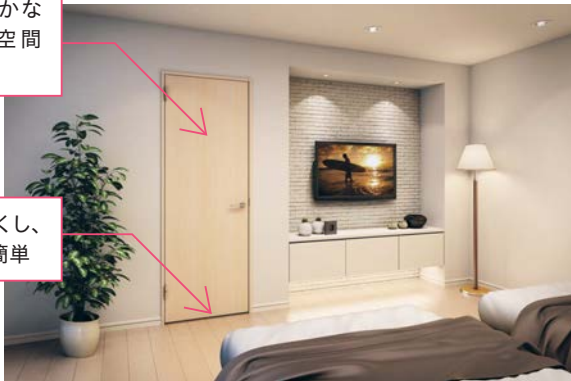
家事や育児など、日々の暮らしの中での中心的存在は、奥さん。家へのこだわりも、旦那さんとは違うものがあります。

商品開発担当の若手女性社員が、住まいの困りごとや流行・トレンドをいち早くつかみ、暮らしの心地よさやあこがれの実現をお手伝いします。

#### 住まいの生活音を低減 インテリア建材「ウッデリア VS 簡易防音ドア・引戸」

寝室に静かなくつろぎ空間をお届け

段差を無くし、お掃除が簡単



子供たちが寝静まった夜でも、テレビの音が漏れにくいので安心



近年、住宅の高気密化により屋外の音が入りにくくなった反面、家の中の生活音が気になるというお客様の声が多いことから、防音タイプのドアと引戸をラインナップしました。

これにより、寝室などのプライベート空間を、心安らぐくつろぎの空間としてご提案することが可能となりました。

廊下や隣の部屋から漏れ聞こえる、テレビや掃除機、洗濯機の音やトイレの流水音といった、“音”が気になる場所での使用にオススメです。



三協アルミ社 商品企画部  
商品企画課  
吉野 寿美枝

三協アルミ社 商品開発部  
商品開発三課  
水名 裕太

毎日の出入りや掃除がしやすいよう、ドアは床との段差を無くしました。また、引戸もレール形状を工夫し、2.5mmの段差に抑えました。

遮音性能の確保と段差を無くすことの両立は苦勞しましたが、扉の開閉力も軽く抑えた仕様で、これらを実現しています。

また、インテリア建材「ウッデリアVSスタンダード」と外観意匠を合わせているので、お部屋全体に統一感を持たせることができます。

### 三協アルミホームページ 「こだわりTALK」

女性の気持ちにピン!とくる玄関ドアや、ママと家族の笑顔あふれる暮らしを応援する商品など、企画・開発を担当した若手女性社員を中心に、商品へのこだわりを紹介しています。



<http://alumi.st-grp.co.jp/sumai/talk/index.html>

## 環境・UDに配慮した商品開発(1)

断熱

## 内貼断熱リフォーム「プラメイクウォール」

## 節電しながら一年中快適！

「プラメイクウォール」は、既存の床・壁・天井の解体を行わず、その内側に断熱パネルを貼るだけで、簡単に断熱性能を向上させることができます。また、一部屋単位での効果的な改修が可能です。

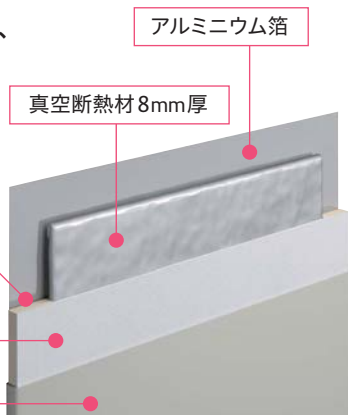
## 商品特徴

- 1 エアコンの効きがよくなり、効率アップ
- 2 短期間で、住みながら簡単リフォーム
- 3 お部屋の広さは、ほとんど変わりません

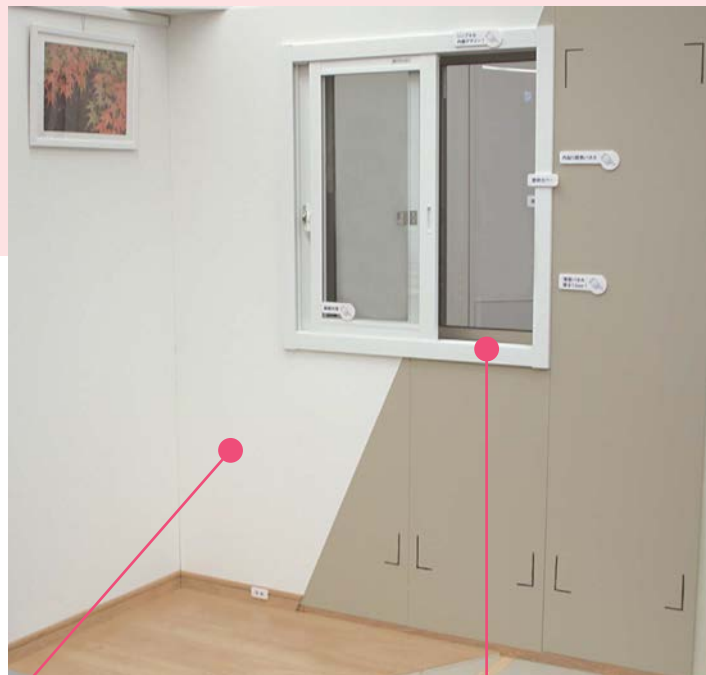
硬質ウレタンフォーム

不燃ボード

亜鉛めっき鋼板



パナソニック株式会社エコソリューションズ社との共同新商品



窓 今の窓につけるだけ

快適性が大幅アップ

後付樹脂内窓

プラメイクE  
PLA MAKE  
EXCELLENT



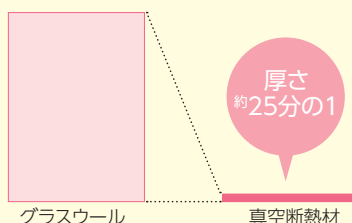
冷蔵庫の断熱材を使用した真空断熱材

内貼断熱リフォーム

プラメイク  
ウォール  
PLA MAKE  
WALL



冷蔵庫や魔法瓶で採用されている真空断熱材は、お湯を長時間保温したり、冷気をしっかり閉じ込めたりと、とても高性能な断熱材です。プラメイクウォールはその断熱材を使用し、外壁と室内の間に熱の移動を遮断する“真空の壁”を作ることによって高い断熱効果を実現。快適な室温をしっかりキープします。また、真空にすることにより従来のグラスウールに比べ、約25分の1という驚きの薄さを実現しました。



## Voice

壁には「プラメイクウォール」、窓に「プラメイクE」を取り付けることで、部屋全体の効果的な断熱リフォームが可能になります。断熱パネルにプラメイクEを取り付けるための専用部材を用意し、スッキリとした納まりになるよう配慮しています。

環境配慮や省エネといった意識が高まるなか、住む人にも快適な空間を提供し、地球温暖化防止と豊かな暮らしづくりに役立つ商品の開発を推進します。

三協アルミ社 商品開発部 商品開発三課 谷内 智



## 環境・UDに配慮した商品開発(2)

## 通風

## 「ナノイー」搭載キャブコン

定風量給排気換気スリット+  
「ナノイー」技術

「風力」、「重力」を駆動力とした自然換気商品「キャブコン」に空気の質を改善する「ナノイー」を搭載しました。

取り入れた外気に含まれる花粉・ウィルスなどのアレル物質を抑制し、暮らしのなかで気になるニオイにも対応します。きれいな空気がお部屋に広がります。



「ナノイー」マークは、パナソニック株式会社の商標です。



空気質を改善する「ナノイー」ユニット

外の空気を取り入れる定風量換気ユニット「キャブコン」

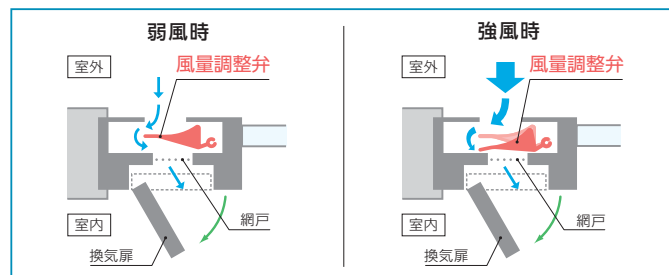
## Voice

「ナノイー」がサッシにビルトインされており、お部屋を広く使うことができます。また、ボタン1つで運転と停止、脱臭フィルターの交換も簡単なシンプル設計で、使う人にやさしい商品となっています。



「ナノイー」搭載キャブコンは、きれいな空気の「風の道」をつくり、快適で健康的な生活に貢献します。

三協アルミ社 商品企画部 環境商品推進課 吹田 和宏



室外の風が強くなると、内部に組み込まれた風量調整弁が動き、風をやわらげて室内に採り入れます。風量調整弁は自然の風力で動きます。

## 通風

## 玄関ドア「ラフォース ナチュレ 採風ドア 寄木風タイプ」

内開き窓の開閉によってドアを閉じたまま通風ができる、ナチュラルで採風しているのを感じさせないドアです。

断熱性、防犯に配慮しつつ玄関空間を快適にします。



さわやかな風を取りこむ、内開き窓

ランダムに配置した格子が、内窓を感じさせません。



## 環境・UDに配慮した商品開発(3)

## 日除け

## お手軽アウトドアリビング「ソラノマ」

## 屋外に“空の間”をつくる

モダン・洋風住宅にも合わせられる、新しいデザインの「フロア」と、生活スタイルに合わせてカスタマイズ可能な「フレーム」との組み合わせで、のんびり気分が楽しめる、お手軽アウトドアリビングができあがります。

また、オプションの日除けスクリーン「ラクシェード」は、簡単に収納できるだけでなく、さまざまな場所に設置可能です。窓の外に取り付けると、日射熱を遮り冷房効果を高めるので、優れた節電対策となります。



タープで、夏のまぶしい日差しをやわらげ、日陰を確保

「ラクシェード」を、窓に取り付けると、日射を抑え冷房効果が高まります



「ラクシェード」で、日射熱をカット

## Voice

外で過ごすことが少なくなってきた現代社会。今までにない開放感のあるアウトドアリビング「ソラノマ」が、みなさんを居心地の良い「空の間」へいざなってくれます。

庭にあるフロアでひと休み。しかし、夏は強い日差しが外へ出ることをはばみます。

そんなとき、「タープ」や「ラクシェード」が夏の日差しを防いで、快適な空間をつくり上げます。

さあ、みなさんも「ソラノマ」で、空との一体感を楽しんでみませんか？

三協アルミ社 商品開発部 商品開発四課 松本 康平



## 日除け

## エコな暮らしを楽しめるアイテム「エコバー」

日差しをやわらげECO空間をつくる「エコバー」。

タープやすだれなどを掛け、ほどよい日陰をつくることができます。

シャッターボックスがある躯体にも、専用持ち出し金具で取り付け可能です。



エコバー



持ち出し金具でシャッターのある窓にも取り付け可能

## 環境・UDに配慮した商品開発(4)

### 新型アルミショーケース「ルミグラス」

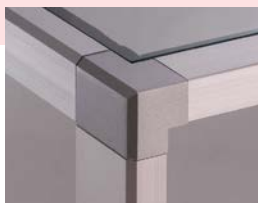
## デザインと機能性を追及したショーケース

正面から見た時のフレームが、よりスリムに見えるよう、見えがかり寸法を16mmまで細め、すっきりとしたデザインに。さらに、フレームに専用のLED照明(オプション)を組み込めば、照明器具を見せることなく、陳列商品を照らし出すことができます。

また、ガラス引戸の上部に設けた専用樹脂パーツによって、フレームとの不快な擦れ音を低減させるとともに、ガラス外しに対する防犯性も向上しています。



細いフレーム  
ですっきりと  
したデザイン



防犯性を  
高める樹脂  
パーツ



安全性に  
配慮した  
棚受け

フレームに組  
み込まれた、  
最適配光の  
LED照明

### Voice

「陳列商品の視認性を高め、かつ安全性を兼ね備えたショーケース」というテーマで、それを両立させるのに大変苦労しました。

LED照明は、光学レンズにより最適な配光を実現。アルミフレームは、照明器具が目立たないように断面設計を工夫したことで、視認性が向上。さらにガラス棚には滑りにくく落下しにくい棚受けを採用するなど、安全性にも配慮しました。

タテヤマアドバンス社 商品企画部商品企画課 伊達道 成保



### 断熱鋳型方式連続鋳造棒「TG-bar」

## アルミ鍛造品の普及に貢献

「TG-bar」は、鍛造・切削加工用のアルミ合金鋳造棒です。新開発の冷却方式により、微細な結晶粒を作り出すことで、加工性に優れた素材となります。

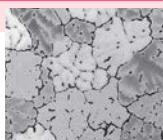
一般にアルミ鍛造品には、鋳造後に押出加工した素材を使用します。「TG-bar」は、鋳造のみの素材のため、コストメリットもあり、自動車の軽量化によるCO<sub>2</sub>排出削減につながる、アルミ鍛造品の普及を後押しします。

#### 微細なマイクロ組織(6061合金)

微細・  
均一な  
内部組織



TG-bar



一般的な鋳造品



鍛造加工品  
(自動車サスペンションの  
ロア・アーム)

#### 商品特徴

- 1 美しい鋳塊表面**  
鋳造棒の表面は、欠陥が少なく、きれいです。
- 2 成分の均一**  
合金成分の偏りが少なく、品質が安定しています。
- 3 微細・均一な組織**  
結晶粒が細かく、均一な組織となります。
- 4 優れた鍛造加工性**  
鍛造加工時の成形性に優れています。



### Voice

「断熱鋳型方式」は、当社オリジナルの鋳造法です。さまざまな合金成分にもフレキシブルに対応可能であり、アルミ鍛造品の用途拡大が見込めます。

部品のアルミ化が進めば、輸送機器の軽量化に伴う燃費向上、すなわちCO<sub>2</sub>排出量削減につながり、地球温暖化防止に貢献できるものと期待しています。

三協マテリアル社 基盤技術部 材料技術課 土肥 正芳



## 環境基本理念と環境とのかかわり

三協立山グループでは、経営理念・行動指針に基づき、環境基本理念、環境方針などを展開し、環境問題については最重要課題として位置付け取り組んでいます。

環境スローガン

### 創ろう美しい地球を

環境基本理念

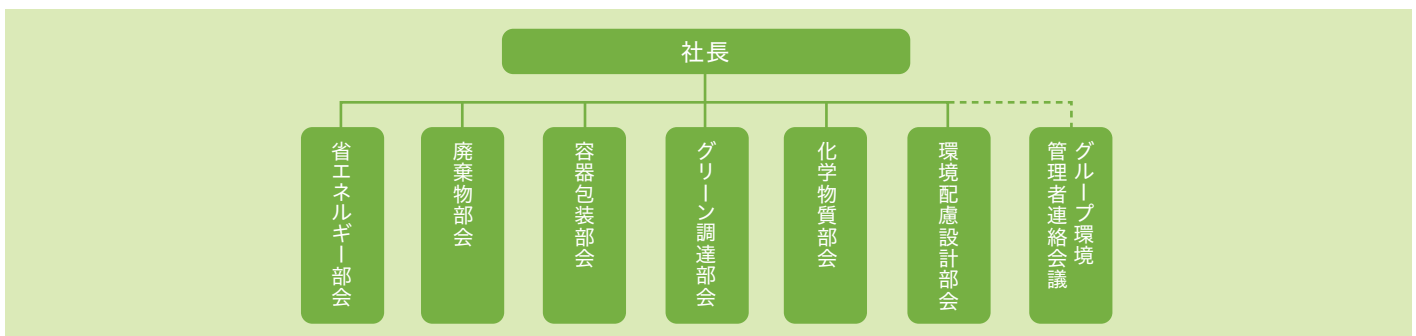
三協立山グループは、地球環境問題を最重要課題として認識し、全ての事業活動を通じ地域や地球の環境保全に取り組み、人と自然にやさしい豊かな社会づくりに貢献いたします。

環境方針

- ① 事業活動における環境負荷低減
- ② 環境配慮商品の充実・推進
- ③ 環境経営および環境リスクへの対応
- ④ 環境コミュニケーションの促進

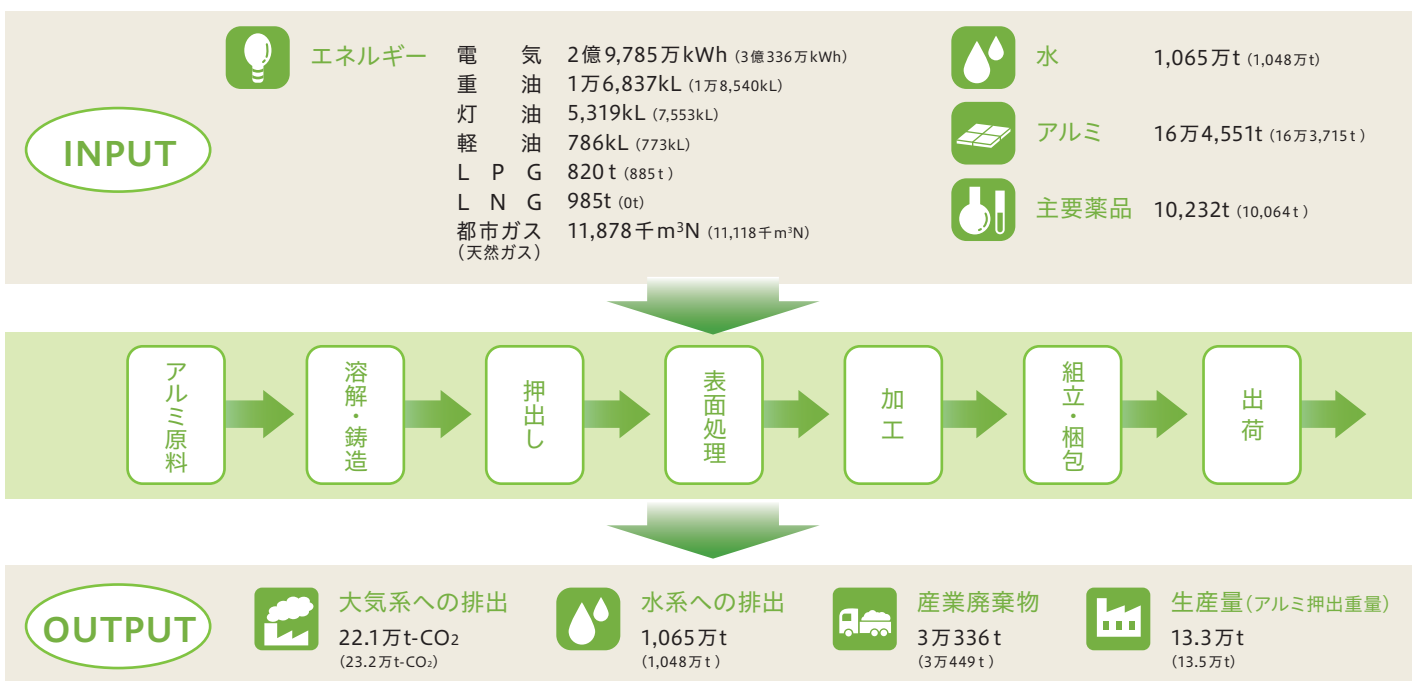
## 推進体制・部会

当グループの環境政策については、課題別部会を設置し具体的に展開しています。



## 環境とのかかわり

当グループでは、主にリサイクルが容易なアルミニウムを材料とし、エネルギーや水、化学物質を使用して商品づくりを行っています。その過程として、資源の消費、廃棄物やCO<sub>2</sub>の発生という形で、環境に負荷を与えています。このような負荷を低減するためのさまざまな活動を通じて、地域や地球の環境保全に取り組んでいます。



※( )内は2011年度実績  
 ※集計範囲・・・三協立山

## 環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム※は、構築したシステムを継続的にレベルアップしていくことが重要です。このことが社会的責任を果たすことであると考え、さらに環境マネジメントシステムを充実させていきます。

※環境マネジメントシステム：企業が、その経営のなかで自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、方針・活動内容などを設定してその達成に向けて取り組んでいくための体制・仕組み



射水工場



福野工場



視察風景



マグネシウム消火演習



放水訓練

### ISO14001の認証取得

三協立山では、2008年度までに全ての工場および生産系関連会社において、ISO14001を認証取得しました。

ISO14001の取得は、環境マネジメントシステム構築の基本となるため、維持更新を図り、継続的にレベルアップに努めていきます。

### 環境パトロールの実施

当グループでは、環境事故の未然防止、環境保全意識の向上および法令遵守を目的に、毎年関連会社も含めて全工場の環境パトロールを実施しています。契約書類、届出書類などが法令に準拠しているか、環境測定データが基準値を外れていないか、タンク類が液漏れを起こす危険性がないかなどについて書類チェックおよび現場確認を行っています。

2012年度は、法令違反はありませんでしたが、廃棄物置場や危険物貯蔵所の看板において分かりづらいものがあったため、改善しています。

今後も環境パトロールを継続して実施し、環境事故の未然防止に努めていきます。

### 産業廃棄物処分業者の視察

当グループでは、グループ内から排出された産業廃棄物が法令に準拠して適正に処分されているか確認するため、毎年計画的に産業廃棄物処分業者の視察を実施しています。

2012年度は、4業者を視察しましたが、いずれの業者も適正に処分していることが確認できました。

今後も継続的に視察を実施し、産業廃棄物の適正処分の確認に努めていきます。

### 緊急事態への対応(奈呉工場の例)

奈呉工場では、毎年火災などを想定した緊急事態対応の訓練を実施しています。

工場内では、アルミ合金ビレット casting のため、重油・LNGなどの引火物および塩素などの劇物を使用していますので、2012年11月に、配管などに異常が発生した場合の火災発生、劇物漏洩を想定した訓練を実施しました。

今回は、消防署と連携し、連絡・対処・避難誘導などの訓練を行いました。訓練後には技術開発統括室員によるマグネシウム消火演習を行いました。

今後も毎年、訓練を繰返し行うことで有事の際に各人がどういう行動を取るべきかを再確認していきます。

## 環境行動目標と実績(1)

2012年度は、三協立山の環境にかかわる第3次中期計画(2010年度～2012年度)の期中(最終年度)でしたが、長期VISION-2020(2011年7月策定)の達成に向けた中期経営計画(2012年度～2014年度)が策定されましたので、その期間に合わせた新たな中期環境行動目標(2012年度～2014年度)を設定しました。

下表に、各取り組み項目の目標値を示します。

### 中期環境行動目標

環境方針	取り組み項目	中期環境行動目標(2012年度～2014年度)
事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化対策 (省エネルギー対策)	・エネルギー使用量を2011年度比 2014年度生産量原単位 全体で3%削減
		・CO <sub>2</sub> 排出量を2011年度比 2014年度生産量原単位 全体で3%削減
		(長期目標) ・CO <sub>2</sub> 排出量を1990年度比 2020年度 総量で20%削減
		・輸送段階におけるCO <sub>2</sub> 排出量を2011年度比 2014年度輸送量(トンキロ)原単位全体で3%削減
	廃棄物対策	・工場部門の産業廃棄物 各年度のリサイクル率97%以上
		・工場部門の産業廃棄物排出量を2011年度比 2014年度 3%削減
省梱包の推進	・梱包副資材の使用量 各年度 2011年度より削減	
化学物質対策	・PRTR対象物質の使用量を2011年度比 2014年度 3%削減	
環境配慮商品の充実・推進	グリーン調達	・事務用品のエコ商品購入率 2014年度までに80%以上に向上 ・グリーン調達ガイドラインの継続運用
	環境配慮商品の開発推進	・環境・エコ分野商品の現領域強化と新領域への展開
	LCAを適用した 環境配慮設計の推進 (LCA:ライフサイクルアセスメント)	・全ての新規自社開発商品への環境配慮設計の実施
環境リスクへの対応	環境管理、監視体制の強化	・継続的な環境パトロールの実施 ・法令違反の発生件数0件、重大環境事故の発生件数0件
	産業廃棄物管理の徹底	・継続的な処理業者への視察 ・廃棄物処理法違反の発生件数0件
環境コミュニケーションの促進	情報開示(CSR報告書の発行)	・年1回の発行 ホームページで公開
	生物多様性の保全	・生物多様性ガイドラインの策定 ・森づくり活動の推進
	地域社会との共生、 関係団体への参画	・関係諸団体への継続的な参画 ・環境保全活動への参画
	環境教育	・環境講習会・セミナーの開催推進 ・環境家計簿の参加推進



## 環境行動目標と実績(2)

2012年度の環境行動目標と実績は、下表の通りです。

### 2012年度の環境行動目標と実績

環境方針	取り組み項目	2012年度 目標	2012年度 実績	自己評価	掲載ページ
事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化対策 (省エネルギー対策)	・エネルギー使用量を2011年度比 生産量原単位 全体で1%削減	・エネルギー使用量を2011年度比 生産量原単位2.0%削減		P33
		・CO <sub>2</sub> 排出量を2011年度比 生産量原単位 全体で1%削減	・CO <sub>2</sub> 排出量を2011年度比 生産量原単位3.1%削減		P33
		—————	(長期目標) ・CO <sub>2</sub> 排出量を1990年度比 15.9%削減	—	P33
		・CO <sub>2</sub> 排出量を物流分野で2011年度比 輸送量(トンキロ)原単位 全体で1%削減	・CO <sub>2</sub> 排出量を物流分野で2011年度比 輸送量(トンキロ)原単位 全体で2.6%増加		P34
	廃棄物対策	・工場部門の産業廃棄物 リサイクル率97%以上	・産業廃棄物リサイクル率 97.7%(全工場トータル)		P35
		・工場部門の産業廃棄物排出量を2011年度比1%削減	・工場部門の産業廃棄物排出量 2011年度比全体で0.4%削減		P35
	省梱包の推進	・梱包副資材の使用量 2011年度より削減	・梱包副資材の使用量 2011年度より4.5%削減		P35
化学物質対策	・PRTR対象物質の使用量を2011年度比1%削減	・PRTR対象物質の使用量 2011年度比9.1%削減		P36	
環境配慮商品の充実・推進	グリーン調達	・事務用品のエコ商品購入率78%以上 ・グリーン調達ガイドラインの継続運用	・事務用品、作業服ともエコ商品購入実施 ・事務用品のエコ商品購入率 71.6%		P38
	環境配慮商品の開発推進	・環境・エコ分野商品の現領域強化と新領域への展開	・断熱3商品、自然採風2商品、遮熱1商品開発 ・環境配慮商品売上比率83%		P23 ~27
	LCAを適用した環境配慮設計の推進 (LCA:ライフサイクルアセスメント)	・環境配慮設計チェックリストの継続実施	・新規開発商品は「環境配慮設計チェックリスト」で100%評価		P23
環境リスクへの対応	環境管理、監視体制の強化	・工場間および関連会社の環境パトロール継続実施 ・法令違反の発生件数0件、重大環境事故の発生件数0件	・全ての工場、関連会社の環境パトロール実施 ・法令違反の発生件数0件、重大環境事故の発生件数0件		P30
	産業廃棄物管理の徹底	・継続的な処理業者への視察 ・廃棄物処理法違反の発生件数0件	・継続的な処理業者への視察 ・廃棄物処理法違反の発生件数0件		P30
環境コミュニケーションの促進	情報開示 (CSR報告書の発行)	・年1回の発行 ホームページで公開	・「CSR報告書2012」の発行 ホームページで公開		—
	生物多様性の保全	・生物多様性の指針策定 ・森づくり活動の推進	・策定検討中 ・高岡市との「森づくり活動に関する協定」に調印		P2
	地域社会との共生関係団体への参画	・関係諸団体への積極的な参加	・関係諸団体への参加		P38
	環境教育	・環境講習会・セミナーの開催推進 ・環境家計簿の参加推進	・環境家計簿の参加推進		P38

 目標達成  目標未達成

## 地球温暖化対策(省エネルギー対策)(1)

三協立山グループでは、地球環境問題を人類共通の最重要課題として認識しており、省エネ活動をはじめとする地球温暖化対策に継続的に取り組み、地道な活動を進めています。

### CO<sub>2</sub>排出量とエネルギー使用量

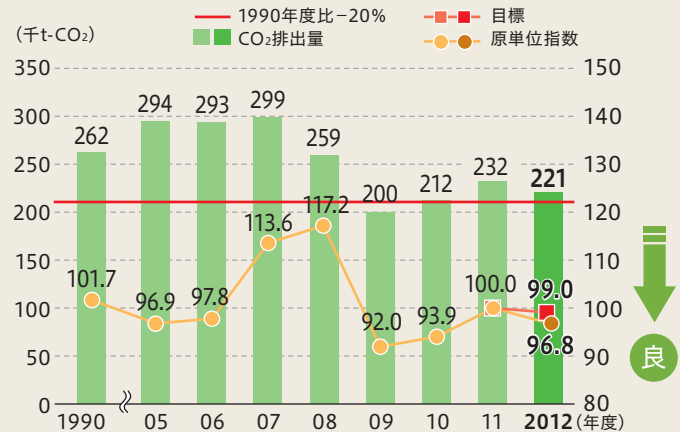
2012年度のCO<sub>2</sub>排出量の総量は、2011年度比で4.8%(約11千t-CO<sub>2</sub>)の削減、1990年度比では15.9%(約41千t-CO<sub>2</sub>)の削減となりました。これは、主に重油・灯油からLNGへの燃料転換と、日頃からの地道な省エネ活動などを実施したことによります。(エネルギー使用量は2011年度比3.6%削減)

生産量原単位について、生産量は2011年度比1.6%減少したものの、CO<sub>2</sub>排出量原単位は、2011年度比で3.1%、エネルギー使用量原単位は2.0%減少となりました。

### 工場ごとのCO<sub>2</sub>排出量とエネルギー使用量

工場	CO <sub>2</sub> 排出量		エネルギー使用量	
	t-CO <sub>2</sub>	比率	GJ	(原油換算kL)
新湊	8,856	4.0%	184,144	4,751
佐加野	2,199	1.0%	43,779	1,129
福光	3,254	1.5%	62,554	1,614
氷見	964	0.4%	18,568	479
福岡	14,172	6.4%	324,019	8,360
福野	2,640	1.2%	49,137	1,268
射水	92,779	42.1%	1,985,015	51,213
高岡	1,007	0.5%	21,595	557
新湊東	5,400	2.4%	120,324	3,104
石川	19,131	8.7%	432,330	11,154
奈呉	66,626	30.2%	1,085,825	28,014
横浜	641	0.3%	17,052	440
有磯	86	0.0%	2,018	52
本社	2,475	1.1%	54,473	1,405
本社別館	290	0.1%	6,580	170
合計	220,520	100.0%	4,407,413	113,711

### CO<sub>2</sub>排出量と生産量原単位の推移



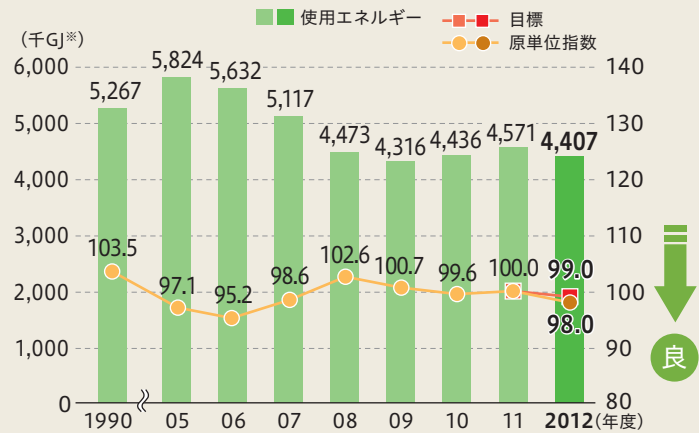
※算出根拠：地球温暖化対策の推進に関する法律に定められる排出係数による。

(環境省平成22年3月改正)

※2012年度の電力のCO<sub>2</sub>換算係数は、2010年度の値を使用しています。

※2009年度以前は、4月～3月のデータです。

### エネルギー使用量と生産量原単位の推移



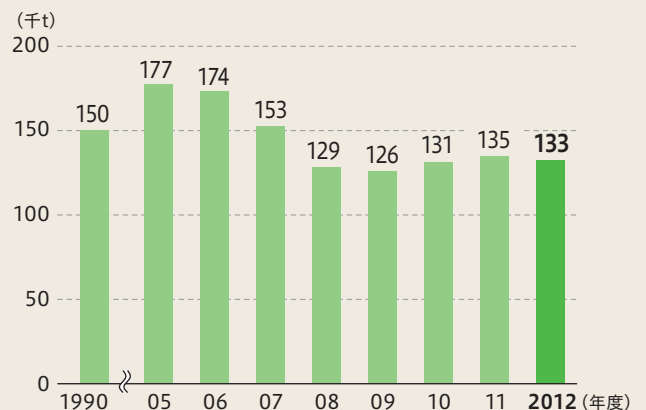
※算出根拠 電 力：エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則

熱使用：資源エネルギー庁「エネルギー源別発熱量表」

※GJ：ギガジュール

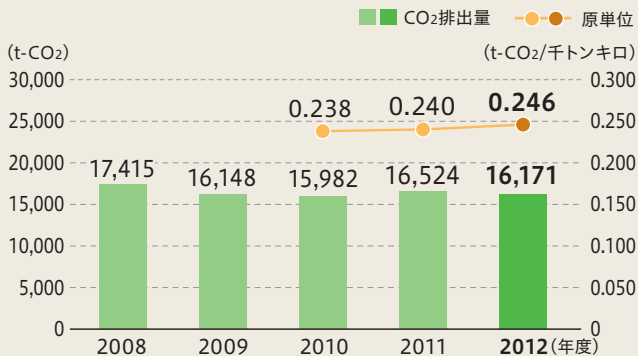
※2009年度以前は、4月～3月のデータです。

### 生産量の推移



※2009年度以前は、4月～3月のデータです。

## 地球温暖化対策(省エネルギー対策)(2)

輸送部門のCO<sub>2</sub>排出量と原単位

LNG供給設備

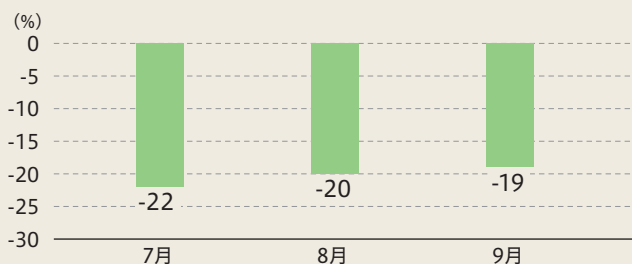
## 営業車のガソリン使用量



## ◆全支店の節電活動実績(2012年7～9月)

- ・電力使用量(kWh)：
- 2010年度比 約21%削減

## 電力使用量前年比

輸送部門でのCO<sub>2</sub>排出量

2012年度は、輸送量(重量×距離)が減少したため、CO<sub>2</sub>排出量は、2011年度比2.1%減(353t-CO<sub>2</sub>減少)となり、CO<sub>2</sub>排出量の輸送量原単位は、2011年度比2.6%増加となりました。

## 省エネルギー活動事例

## ●燃料転換

福岡工場および石川工場では、燃料を重油・灯油からLNGに転換しました。LNG供給設備の設置、重油焚蒸気ボイラーをLNG焚ボイラーに更新、皮膜焼付炉灯油バーナーをLNGバーナーに更新することで、CO<sub>2</sub>排出量削減を図りました。

## ●営業車のガソリン使用量削減

全社有車を対象とした「エコドライブコンテスト」を実施し、燃費向上を競い合いました。また、低燃費車の導入も進めた結果、2012年度のガソリン使用量は前年比3.9%(55kl)削減しました。

## 節電活動

2012年夏、当社は電力の使用抑制のため、以下の節電活動に取り組みました。

## &lt;取り組み期間&gt;

- ◇2012年7月1日～9月30日

## &lt;生産拠点における節電対応策&gt;

- ◇工場の一部押出・皮膜ライン等における勤務体制を見直し、休業日を現状の土曜・日曜から火曜・水曜にシフト実施
- ◇工場内照明、空調およびコンプレッサー等関連設備の節電推進

## &lt;本社・各営業拠点における節電対応策&gt;

- ◇全社クールビズ活動期間を例年より拡大実施(5月中旬～10月末)
- ◇エアコン使用時の室内温度を29℃に設定
- ◇照明のLED化推進および不使用エリアの消灯を徹底
- ◇自動販売機の運転時間を短縮
- ◇パソコンのモニター輝度を約60%ダウン
- ◇離席時のパソコン省電力モード活用推進と帰宅時のパソコン・プリンターの電源OFFの徹底

## 廃棄物・水資源対策と省梱包

### 廃棄物対策

三協立山グループでは、生産工程から定常的に発生する産業廃棄物の排出量抑制と、リサイクル率向上に取り組んでいます。

#### ●産業廃棄物排出実績

2012年度の産業廃棄物排出量は、前年度比0.4%削減(0.1千t減)となりました。これは生産量が減少したことによるものです。リサイクル率については、鑄造部門で埋立量が減ったことにより、全体の埋立量は1.03千tに減少し、リサイクル率は97.7%に向上しました。

#### ●ゼロエミッション達成状況

2012年度は、12工場のうち10工場で、また合計でもゼロエミッション(リサイクル率97%以上)を達成しました。

#### ■工場ごとの産業廃棄物排出量とリサイクル率

工場	産業廃棄物排出量(t)	リサイクル率(%)
佐加野	17	100.0
福光	70	99.9
福野	21	100.0
氷見	39	100.0
新湊	921	99.3
射水	22,057	98.2
高岡	21	100.0
新湊東	27	57.6
奈良	625	88.4
福岡	4,290	100.0
石川	2,217	100.0
横浜	31	100.0
合計	30,336	97.7

#### ●オフィス部門での取り組み

三協立山本社では、一般廃棄物削減に取り組んでいます。2012年度は、古紙分別の徹底により、前年度比8.5%(8t)削減しました。

### 水資源対策

水資源対策として工業用水、地下水などの使用量削減に取り組んでいます。

2012年度の水資源使用量は、前年度比1.6%増加(17万t増)となりました。これは水資源を多量に使用する皮膜工程での生産量が増加したことによるものです。

### 省梱包への取り組み

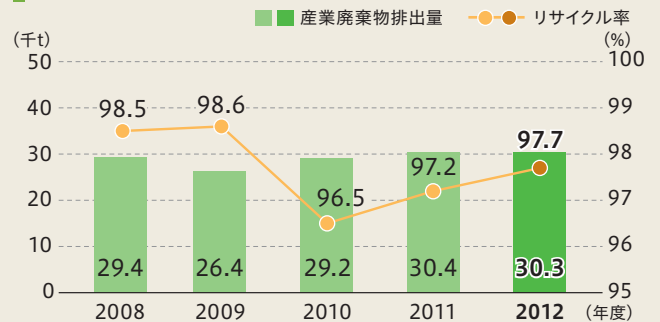
省梱包への取り組みとして、梱包資材の削減、梱包レスの推進、材質転換・統一化の3つの柱を掲げ、活動しています。

#### ●活動事例:大型型材の梱包改善

ハウスメーカー向け商品の大型型材の梱包材を、ミラーマットからリユース可能な緩衝材に変更しました。

これにより年間約600キログラムの廃棄物削減となりました。

#### ■産業廃棄物排出量とリサイクル率の推移



※リサイクル率は有価物を含めて計算しています。

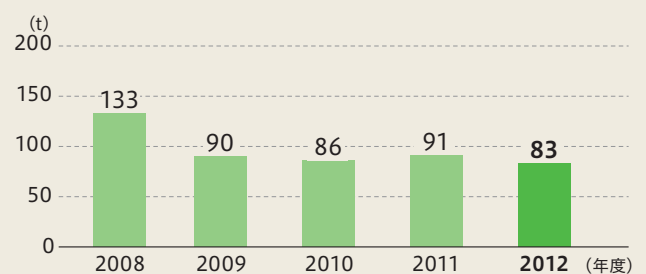
※データ集計期間は、2009年度以前は、4月～3月のデータです。

#### ■産業廃棄物埋立量の推移



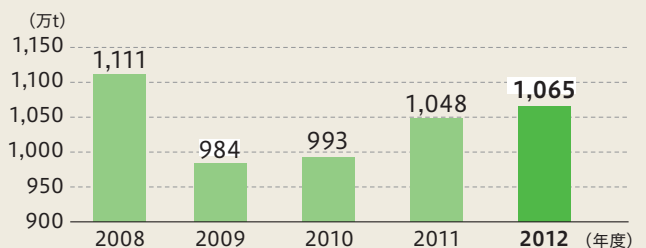
※データ集計期間は、2009年度以前は、4月～3月のデータです。

#### ■一般廃棄物排出量の推移

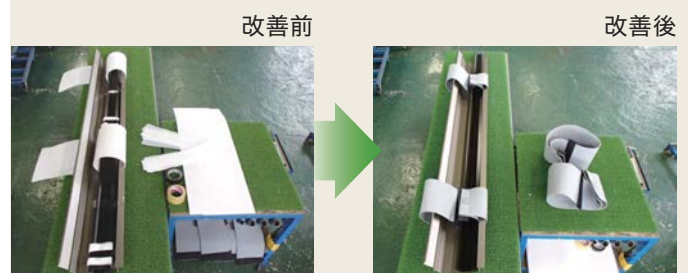


※データ集計期間は、2009年度以前は、4月～3月のデータです。

#### ■水資源使用量の推移



※データ集計期間は、4月～3月です。



## 化学物質対策

三協立山グループでは、PRTR※法対象物質の管理および排出量の削減に努めています。

※PRTR (Pollutant Release and Transfer Register : 環境汚染物質排出・移動登録)

### 化学物質管理

関連会社も含めた2012年度のPRTR法に基づく報告対象物質の取扱量の合計は、718.3t です。このうち、大気、水域への排出量は、取扱量の30% (216.3t) に相当し、その内の多く (194.3t) が大気に排出されています。(公共水域への排出量は22.0t)

大気排出量が多い物質は、塗装工程の溶剤であるトルエン、キシレン、エチルベンゼンの3物質とラッピング接着工程の溶剤であるジクロロメタンであり、この4物質で大気排出量の85% (165.4t) を占めています。

以下にPRTR届出義務対象化学物質の排出量、移動量などを示します。

### PRTR届出義務対象物質(関連会社含む)

集計期間: 2012年4月~2013年3月

集計範囲: 12事業所(三協アルミ社(6)、三協マテリアル社(3)、タテヤマアドバンス社、協立アルミ、三協化成、STメタルズ、三精工業)

(単位:t/年 ただし、ダイオキシン類はmg-TEQ)

番号	化学物質名	主な用途	取扱量	排出量			移動量		除去処理量	消費量
				大気	水域	土壌	リサイクル	廃棄物		
31	アンチモンおよびその化合物	難燃剤	3.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	3.6
53	エチルベンゼン	製品塗装、車輛燃料	37.1	32.9	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0
80	キシレン	製品塗装、車輛燃料、暖房燃料	91.9	67.4	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	20.3
87	クロムおよび3価クロム化合物	表面処理/電気クロムメッキ	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	24.4
186	ジクロロメタン	ラッピング接着	14.7	14.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
243	ダイオキシン類	—	—	90.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
277	トリエチルアミン	製品塗装	20.7	20.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	製品塗装、車輛燃料	28.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.7
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	製品塗装	3.1	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300	トルエン	製品塗装、車輛燃料	72.9	50.5	0.0	0.0	19.1	0.0	0.0	3.3
305	鉛化合物	廃プラに含有、アルミビレットの原料に配合	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
308	ニッケル	表面処理	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.8
309	ニッケル化合物	表面処理	28.9	0.0	3.5	0.0	1.1	1.8	0.0	22.5
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	シーリング剤、塩ビの可塑性	225.0	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	218.5
374	フッ化水素およびその水溶性塩	アルミビレット製造時の溶湯除滓剤	7.9	0.3	2.2	0.0	0.2	0.0	0.0	5.2
392	ノルマルヘキササン	シーリング剤付着ハケの洗浄	2.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
405	ホウ素およびその化合物	表面処理	20.4	0.0	16.1	0.0	0.3	1.3	0.0	2.7
412	マンガンおよびその化合物	アルミビレットの原料に配合	42.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.8	0.0	41.0
438	メチルナフタレン	各種炉燃料	61.6	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.9
448	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	ラッピング接着、発泡ウレタン	21.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	21.3
合計			718.3	194.3	22.0	0.0	35.7	4.9	0.0	461.4

※上記集計表には、PRTR届出に必要な取扱量に達していない事業所の実績は含まれていません。

※リサイクル: 対象物質を再生業者に引き渡した量

※除去処理量: 除去処理を目的に対象物質が中和・分解・反応処理などにより他の物質に変化させた量

※消費量: 対象物質が反応原料として消費された量、または製品に含有もしくは付着して場外に持ち出される量

### PRTR該当物質使用量



### 化学物質使用量

当グループは、「化学物質ガイドライン」を制定し、運用しています。「化学物質ガイドライン」運用の目的は、商品に使用する部品・部材などに含有する環境負荷物質について、使用禁止レベル(禁止・削減・管理)を明確にし、環境品質を維持・向上することです。

2012年度の化学物質使用量は、PRTR対象物質において、2011年度比9.1% (69t) の削減となりました。主な理由は、ラッピング接着工程の溶剤であるジクロロメタンの代替化を進めたことによるものです。

## 法規制遵守

三協立山グループでは、環境に関する法規制の遵守を基本として、事業活動を進めています。事業活動に係わる法律や各地域における協定などの遵守はもちろんのこと、より厳しい自主基準を設けて管理しています。

### PCB管理

当グループでは、PCBを含む電気工作物、蛍光灯安定器について廃棄物処理法の基準に沿って適正に保管・管理しています。

高濃度 PCB 廃棄物（電気工作物）については、今までに 80 台を適正に処理しました。残りの高濃度 PCB 廃棄物は、2013 年度中に処理する予定です。

#### PCB管理対象機器台数一覧(2013年3月31日現在) 単位:台

拠点名	高濃度PCB廃棄物 (使用中含む)		微量PCB 混入廃棄物 台数 (分析サンプル除く)	微量PCB 混入使用中 電気工作物 台数	微量PCB 混入の可能 性がある 電気工作物台数
	電気工作物 台数	蛍光灯安定 器台数			
新湊	0	0	1	7	21
佐加野	0	54	0	0	0
福光	14	277	8	0	2
福岡	0	0	9	24	0
氷見	0	0	0	1	0
福野	0	0	4	3	3
福岡西	0	0	0	1	0
射水	32	22	3	4	68
三協立山本社	1	59	7	0	17
三協立山本社別館	0	0	0	0	6
長慶寺(本社管轄)	0	0	6	0	0
高岡	0	74	3	0	0
高岡西	0	0	13	0	0
石川	0	0	0	0	0
新湊東	0	0	0	0	0
奈呉	0	155	1	0	0
横浜	5	101	0	0	0
協立アルミ	2	0	12	1	0
三協化成	0	0	1	0	0
三協工機	0	0	0	0	0
サンクリエイト	0	0	0	0	0
三精工業	0	0	0	0	12
STメタルズ 海老坂工場 西朴ノ木工場	0	0	0	0	0
奈呉物流センター	0	368	4	0	0
合計	54	1,110	72	41	129

※上記集計表には、使用中の蛍光灯安定器で、PCB含有の有無が未確認のものについては含まれていません。



PCB含有物の保管(奈呉工場)



日本環境安全事業(株)へのPCB含有工作物搬出作業

### ダイオキシン管理

奈呉工場には、ダイオキシン類特定施設としてアルミ溶解炉と、そこから発生するガスを処理する廃ガス洗浄施設がありますが、測定値は基準を大幅に下回っています。

#### ダイオキシン濃度測定結果

	特定施設の名称	大気排出測定			水質排出測定		
		排出ガス量 (m <sup>3</sup> N/日)	基準	測定結果	排水量 (m <sup>3</sup> /日)	基準	測定結果
			(ng-TEQ/m <sup>3</sup> N)			(pg-TEQ/L)	
三協マテリアル 奈呉工場	アルミ溶解炉	938,400	5	0.3	—	—	—
	廃ガス洗浄施設	—	—	—	5,000	10	0.073

## 環境コミュニケーション

三協立山グループは、環境保全活動や環境負荷低減活動を地域社会、行政、サプライチェーンなどのステークホルダーの方々と連携しながら推進しています。



来場者への説明風景



環境家計簿2012



クールビズ啓発ツール



ウォームビズ啓発ツール

### とやま環境フェアへの出展

2012年10月に「とやま環境フェア2012」が高岡テクノドームで開催されました。このフェアは、エコライフをテーマに富山県などの主催で毎年開催されており、当社も毎年出展して環境配慮商品の展示や環境への取り組みを紹介しています。

### 環境家計簿の実施

当グループでは、より多くの従業員が環境について理解を深め、主体的に取り組むことができるように、「環境家計簿」(家庭でのCO<sub>2</sub>削減の取り組み:2006年度より取り組み開始)を継続して実施しています。

現在までに延べ680世帯が参加しています。前年比でCO<sub>2</sub>排出量を大きく削減するなど優秀な実績をあげた参加者には景品を贈呈し、家庭でのCO<sub>2</sub>削減活動の活性化を促進しています。

今後もこれらを継続して実施し、環境に対する意識向上に努めていきます。

### クールビズ、ウォームビズ運動の実施

当グループは、環境省が地球温暖化防止国民運動として提唱する「クールビズ運動」、「ウォームビズ運動」に賛同し、2005年度より継続して実施しています。

2012年度は、クールビズ運動期間を5月14日～10月31日、ウォームビズ期間を11月1日～3月31日として実施しました。

<冷暖房設定温度>

クールビズ運動期間:29°C

ウォームビズ運動期間:20°C

<服装>

クールビズ運動期間:ノーネクタイ、ノー上着

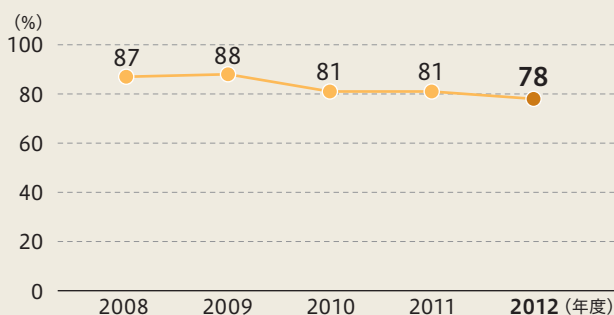
ウォームビズ運動期間:ネクタイ着用、寒い時は着る

### グリーン調達への推進

当グループでは、環境への負荷が少ない資材などの優先調達(グリーン調達)を取引先様とともに推進するために、2001年7月の「グリーン調達ガイドライン」(2008年7月に第2版に改定)を制定しています。

また、事務用品、作業服、OA機器などについても、エコ商品の購入を促進しており、作業服のエコ商品購入率は、約80%で推移しています。

### 作業服のエコ商品購入実績



## 環境測定結果 2012年度実績

各事業所の大気・水質にかかる法規制の遵守状況を公開します。

### 三協アルミ社

項目	単位	福光工場		氷見工場		福岡工場		福野工場			
		基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績		
排出ガス	ばいじん	ボイラー	g/m <sup>3</sup> N	—	—	0.03以下	0.02	0.3以下	<0.01	0.15以下	0.01
		乾燥炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	0.2以下	<0.01	—	—
		加熱炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	0.2以下	<0.01	—	—
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	—	—	140以下	86	180以下	82	150以下	110
		乾燥炉	ppm	—	—	—	—	230以下	16	—	—
		加熱炉	ppm	—	—	—	—	180以下	15	—	—
公共用水域	pH	—	5.8~8.6	7.5	5.8~8.6	6.4~7.3	5.8~8.6	7.1~7.7	5.8~8.5	6.7~7.4	
	BOD	mg/l	20以下	2.7	30以下	2.2	20以下	13.0	20以下	1.3	
	COD	mg/l	—	—	—	—	160以下	8.6	—	—	
	SS	mg/l	—	—	50以下	14.0	50以下	10	10以下	3.0	
	油分	mg/l	—	—	15以下	<1	5以下	<1	15以下	ND	
	全窒素	最大	mg/l	—	—	—	—	120以下	17	—	—
	全りん	最大	mg/l	—	—	—	—	16以下	2.7	—	—

### 三協アルミ社

項目	単位	佐加野工場		新湊工場		射水工場			
		基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績		
排出ガス	SOx濃度	ボイラー	ppm	490以下	39	—	—	—	—
	ばいじん	ボイラー	g/m <sup>3</sup> N	0.15以下	<0.01	0.2以下	0.02	0.1以下	<0.01
		乾燥炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	0.15以下	<0.02
		加熱炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	0.15以下	0.03
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	150以下	110	150以下	84	180以下	93
		乾燥炉	ppm	—	—	—	—	230以下	32
加熱炉		ppm	—	—	—	—	180以下	130	
公共用水域	pH	—	6.5~8.5	6.0~8.3	6.0~8.5	6.6~8.0	6.0~8.5	6.0~8.2	
	BOD	mg/l	20以下	19.0	—	—	20以下	11	
	COD	mg/l	—	—	20以下	8.7	20以下	4.7	
	SS	mg/l	30以下	21.0	50以下	<5.0	50以下	29	
	油分	mg/l	3以下	1.5	3以下	<0.5	2以下	1.0	
	ホウ素	mg/l	—	—	10以下	1.1	10以下	4.3	
	クロム	mg/l	—	—	2以下	<0.2	—	—	
	六価クロム	mg/l	—	—	0.5以下	<0.02	—	—	
	フッ素	mg/l	—	—	15以下	<0.8	8以下	<0.2	
	全窒素	最大	mg/l	60以下	11	60以下	3.7	—	—
全りん	最大	mg/l	8以下	1.1	8以下	0.32	—	—	

①基準値は、国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。

②-の項目は基準値がない対象施設のない項目です。

③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx:硫黄酸化物濃度、NOx:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度

④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。



## 環境測定結果 2012年度実績

各事業所の大気・水質にかかる法規制の遵守状況を公開します。

### 三協マテリアル社

タテヤマアドバンス社

項目	単位	石川工場		高岡工場		新湊東		奈呉工場		横浜工場		
		基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	
SOx濃度	ボイラー	K値	8.00以下	0.13	—	—	—	—	—	—	—	—
	乾燥炉	K値	8.00以下	0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
	加熱炉	K値	8.00以下	0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
	溶解炉	m³N/Hr	—	—	—	—	—	—	4.56	0.63	—	—
ばいじん	ボイラー	g/m³N	0.3以下	<0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
	乾燥炉	g/m³N	0.2以下	<0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
	加熱炉	g/m³N	0.2以下	<0.01	—	—	0.2以下	<0.01	0.15以下	0.02	—	—
	溶解炉	g/m³N	—	—	—	—	—	—	0.15以下	0.09	—	—
窒素酸化物	ボイラー	ppm	180以下	123	—	—	—	—	—	—	—	—
	乾燥炉	ppm	230以下	35	—	—	—	—	—	—	—	—
	加熱炉	ppm	180以下	109	—	—	180以下	14	120以下	68	—	—
	溶解炉	ppm	—	—	—	—	—	—	150以下	143	—	—
ダイオキシン	溶解炉	ng-TEQ/m³N	—	—	—	—	—	—	5以下	0.3	—	—
公共用水域	pH	—	5.8~8.6	7.0~7.3	5.8~8.6	6.4~8.0	5.8~8.6	6.7~7.9	5.5~8.5	7.2~7.7	—	—
	BOD	mg/l	30以下	5.0	20以下	57.0 <sup>⑥</sup>	—	—	—	—	—	—
	COD	mg/l	—	—	—	—	—	—	20以下	3.3	—	—
	SS	mg/l	30以下	3.3	100以下	25.0	—	—	50以下	4	—	—
	油分	mg/l	5以下	<0.5	5以下	1.3	5以下	<0.5	3以下	0.9	—	—
	ダイオキシン	pg-TEQ/L	—	—	—	—	—	—	10以下	0.073	—	—

⑥高岡工場のBOD基準値超過は、合併浄化槽の配管に設置された逆止弁の作動不良によるものです。逆止弁交換後の測定結果では、基準値内となっています。

### 関連会社

項目	単位	協立アルミ		三協化成		STメタルズ西朴木工場		三精工業 本社工場		三精工業 有磯工場	
		基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績	基準値	実績
pH	—	5.8~8.6	6.2~7.0	5.8~8.6	6.7~8.1	5.8~8.6	7.5~7.9	6.0~8.0	6.8~7.2	6.0~8.0	6.9~7.4
BOD	mg/l	20以下	1.4	10以下	1.6	—	—	—	—	—	—
COD	mg/l	—	—	—	—	30以下	7.0	20以下	11.0	20以下	8.1
SS	mg/l	70以下	1	10以下	<2	70以下	2	20以下	7	20以下	7
油分	mg/l	5以下	<1	3以下	<0.5	3以下	<1	3以下	1.7	3以下	1.3
クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	0.3以下	0.08
六価クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	0.15以下	ND
亜鉛	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	3以下	0.8
溶解性鉄	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	5以下	0.29
シアン	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	0.25以下	0.11

## 環境会計

三協立山グループでは、環境省発行の環境会計ガイドラインに基づき、環境保全に係わる費用と効果を定量的に把握して、環境投資と効果を評価しています。

## 2012年度環境会計結果

### 環境保全コスト

単位:千円

環境保全コストの分類	コスト項目の主な内容	設備投資		費用	
		2011年度	2012年度	2011年度	2012年度
1. 事業エリア内コスト	事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト	38,722	149,482	507,535	614,256
内訳	1) 公害防止コスト	650	10,752	165,845	161,572
	2) 地球環境保全コスト	37,572	138,230	4,650	113,460
	3) 資源循環コスト	500	500	337,040	339,224
2. 上・下流コスト	グリーン購入など事業エリアの上流側で発生する環境負荷抑制のために必要なコスト	0	0	2,493	735
3. 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用のためなどに必要なコスト	0	0	98,868	94,999
4. 研究開発コスト	環境負荷抑制に係わる製品の研究開発に必要なコスト	217,716	226,744	234,157	264,323
5. 社会活動コスト	地域住民の行う環境活動などへの寄付、支援のためのコスト	0	0	3,030	3,958
6. 環境損傷コスト	自然修復のために必要なコスト	0	0	0	0
合計		256,438	376,226	846,083	978,271

### 環境保全効果(CO<sub>2</sub>換算)

効果の内容	2011年度		2012年度	
	環境負荷増加量 (t-CO <sub>2</sub> )	前年度比増加率 (%)	環境負荷増加量 (t-CO <sub>2</sub> )	前年度比増加率 (%)
二酸化炭素	9,720	4.4	-11,127	-4.8

### 環境負荷総量内訳

単位:t-CO<sub>2</sub>

	2010年度	2011年度	2012年度
電気	112,888	128,110	123,150
重油	51,401	54,446	49,588
軽油	1,882	1,998	2,032
灯油	18,108	18,803	13,242
ガソリン	72	77	81
LPG	2,528	2,654	2,459
LNG	0	0	2,662
都市ガス	25,048	25,559	27,306
環境負荷総量	211,927	231,647	220,520

### 2012年度環境会計の分析

2012年度の環境保全コストとして、設備投資に3億76百万円、費用に9億78百万円を投入しました。設備投資の主なものとして環境配慮商品を開発するための設備投資に2億27百万円、費用の主なものとして、廃棄物処理などに3億39百万円投入しました。

設備投資は、2011年度に比べて、1億20百万円増加、費用は、1億32百万円増加しました。

環境保全効果(CO<sub>2</sub>換算)の削減量は、約11千t-CO<sub>2</sub>で、削減率は4.8%でした。

環境保全対策に伴う経済効果は、3億9百万円で、2011年度比33%増加しました。

### 環境保全対策に伴う経済効果

単位:千円

効果の内容	2010年度	2011年度	2012年度
1. 省エネによるコスト削減	28,548	56,958	74,358
2. 有価物売却益	154,581	165,371	230,654
3. ダンボール、緩衝材などの削減	7,783	9,673	4,597
合計	190,912	232,002	309,609

### 環境会計要約情報の直近3年間の推移表

	2010年度	2011年度	2012年度
1. 環境保全コスト			
投資額(千円)	455,805	256,438	376,226
費用額(千円)	954,776	846,083	978,271
2. 環境保全効果に関する環境パフォーマンス指標			
総エネルギー投入量(千GJ)	4,436	4,524	4,407
水資源投入量(万t)	993	1,048	1,065
CO <sub>2</sub> 排出量(万t-CO <sub>2</sub> )	21.2	23.2	22.1
産業廃棄物排出量(万t)	2.9	3.0	3.0
総排水量(万t)	993	1,048	1,065
3. 環境保全対策に伴う経済効果			
実質的效果(千円)	190,912	232,002	309,609

●集計期間…2012年6月1日～2013年5月31日

●集計範囲…三協立山㈱

## 主要指標一覧

### [2012年度] 主要な環境パフォーマンス指標などの推移

項目	報告対象期間	報告対象期間			集計範囲	本報告の掲載頁
		2010年度	2011年度	2012年度		
総エネルギー投入量	(千GJ)	4,436	4,571	4,407	三協立山	P33
主要原料投入量	(千トン)	162	164	165	三協立山	P29
水資源投入量	(千トン)	9,930	10,480	10,650	三協立山	P35
温室効果ガス排出量	(千トン-CO <sub>2</sub> )	212	232	221	三協立山	P33
産業廃棄物排出量	(千トン)	29.2	30.4	30.3	三協立山	P35
産業廃棄物埋立量	(千トン)	1.5	1.2	1.0	三協立山	P35
PRTR対象物質取扱量	(トン)	767	787	718	三協立山、関連会社	P36
化学物質トルエンの排出量	(トン)	43	60	51	三協立山、関連会社	P36
化学物質キシレンの排出量	(トン)	54	80	67	三協立山、関連会社	P36
総資産	(百万円)	212,172	212,862	216,545	三協立山	P45
売上高	(百万円)	260,978	272,554	271,757	三協立山	P45

※温室効果ガス排出量:年度ごとの各電力会社の実排出係数にて算出(2012年度の排出係数は2010年度の値を使用)

※環境報告ガイドライン2007年版準拠

※主要原料投入量、水資源投入量、PRTR対象物質取扱量、化学物質トルエンの排出量、化学物質キシレンの排出量の集計期間は、4月1日～翌年3月31日

※総資産、売上高について、2011年度(2012年5月期)までは三協・立山ホールディングス株式会社の実績

#### 環境に関する特記事項

- ・全社共通の取り組みとしてコンプレッサーの省エネ対策実施
- ・LED照明などの高効率ランプや高効率機器への更新
- ・エアコン運転台数の抑制と室内温度管理の徹底
- ・リユース緩衝材使用による廃プラスチック排出量の削減

#### 環境に関する規制遵守の状況

- 規制当局から指導、勧告、命令、処分を伴う環境関連法規制などの違反はありませんでした。
- 全国20ヵ所の工場を対象に環境監査を実施した結果、環境関連法規制などに違反するものではありませんでした。

#### 報告対象組織・期間・分野

##### (1) 報告対象組織

三協立山(三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社)  
 関連会社:ST物流サービス、協立アルミ、三協化成、三協工機、サンクリエイト、三精工業、STメタルズ

##### (2) 報告対象期間、発行日および前回・次回発行日

報告対象期間:2012年6月1日から2013年5月31日  
 (一部2012年4月1日から2013年3月31日)  
 発行月:2013年8月  
 前回発行月:2012年8月 次回発行月:2014年8月

##### (3) 報告対象分野

環境的側面、社会的側面

##### (4) 作成部署および連絡先

作成部署:三協立山 総務部CSR・コンプライアンス推進課  
 連絡先:電話0766-20-2550、FAX0766-20-2082

##### (5) WebサイトのURL






三協立山 <http://www.st-grp.co.jp/>

## 環境保全活動の歩みとグループのこの一年

### 〈環境保全活動の歩み〉

- 1967年 ●公害対策基本法制定
- 1971年 ●本社技術部に公害防止対策部署を設置  
[三協アルミ](以降 各工場に環境保全課を設置)
- 1993年 ●環境基本法制定  
●ボランタリープラン策定[三協アルミ]  
(環境理念・環境スローガンの制定)
- 1996年 ●特定フロン全廃完了
- 1998年 ●福光、福野工場の表面処理設備廃止
- 1999年 ●立山合金 石川工場(現 石川工場) ISO14001認証取得  
●全社の環境方針制定[三協アルミ]  
(課題別委員会の設置、活動開始)
- 2000年 ●循環型社会形成推進基本法の制定  
●新湊工場、氷見工場 ISO14001認証取得  
●佐加野工場の表面処理設備廃止  
●本社生産本部に環境対策部を設置[立山アルミ]
- 2001年 ●環境報告書の発行[三協アルミ]  
●グループ全社でトリクロロエチレンの使用を全廃  
●福野工場、佐加野工場 ISO14001認証取得  
●富山軽金属(現 射水工場) ISO14001認証取得  
●富山合金(現 奈呉工場) ISO14001認証取得  
●社内向け「環境宣言」発表[立山アルミ]  
(テーマ別委員会の設置、活動開始)
- 2002年 ●行動指針の社員カード発行[三協アルミ]  
●高岡工場 ISO14001認証取得
- 2003年 ●「環境への取り組み」をホームページに掲載[立山アルミ]  
●福光工場、福岡工場 ISO14001認証取得
- 2004年 ●三協化成 ISO14001認証取得
- 2005年 ●新湊マテリアル工場(現 射水工場)、新湊工場  
都市ガス(天然ガス)の導入
- 2006年 ●三精工業、三協工機、サンクリエイト、協立アルミ、  
タテヤマメタックス(現 STメタルズ西朴木工場)  
ISO14001認証取得
- 2007年 ●横浜工場 ISO14001認証取得
- 2008年 ●「チーム・マイナス6%」参加  
●横浜工場 ISO14001を拡大取得
- 2010年 ●富山合金 三協マテリアルに統合(現 奈呉工場)
- 2011年 ●タテヤマアドバンス横浜工場めっき事業廃止
- 2013年 ●福岡工場、石川工場 天然ガスの導入  
●高岡市と「森づくり」活動に関する協定調印  
(森づくり活動開始)

### 〈グループのこの1年〉

- 2012年
  - 4月 ●三協立山アルミ  
エクステリア新商品展示会/EXE2012 東京ビックサイトに  
出展
  - 5月 ●三協・立山HDグループ  
本社敷地内に「太陽光発電システム」を導入  

  - 6月 ●三協立山株式会社発足  
●三協立山 名古屋ショールームリニューアルオープン  

  - 7月 ●三協・立山HD 販売子会社16社を再編し「三協テック」へ  
●タテヤマアドバンス  
「2012 上海国際展示・POP・  
商用施設器材展示会」に出展  
  
●タテヤマアドバンス  
上海立山商業設備有限公司新工場竣工式
  - 8月 ●三協・立山HD 第9回定時株主総会  
●【BCリーグ公式戦】「震災遺児育英支援試合」として三協立山  
グループ冠試合を開催
  - 9月 ●三協立山 次世代育成認定マーク「くるみん」を取得  
●三協アルミ 2012エクステリアデザインコンテスト実施
  - 10月 ●三協アルミ グッドデザイン賞受賞  
自然換気システム「ARM-S@NAV」  
玄関ドア「ラフォース採風タイプ」  
●三協アルミ 横型定風量換気スリット「ウィンコン」の特許発  
明が平成24年度中部地方発明表彰で富山県知事賞を受賞  
●三協立山「均等推進企業部門 富山県労働局長奨励賞」を受賞
  - 11月 ●三協アルミ  
パナソニック共同新商品発表会開催  
  
●三協アルミ グッドデザイン金賞受賞  
自然換気システム「ARM-S@NAV」
  - 12月 ●三協立山 三協・立山HDを吸収合併し、東証1部へ新規上場  
●三協アルミ 公益財団法人日本適合性認定協会より  
ISO/IEC17025(試験所および校正機関の能力に関する  
一般要求事項)に適合した試験所として認定
- 2013年
  - 1月 ●三協マテリアル 高級ブランド「エルメス」の中国進出ブランド  
「シャン・シャ」北京店内装のデザインスクリーンを製作
  - 2月 ●三協アルミ 日経BP社「採用したい建材・設備メーカー  
ランキング2012」で笠木部門1位獲得  
●三協アルミ 駐日ペルー大使  
エラルド・エスカラ夫妻が射水工場を  
視察  

  - 3月 ●台湾の大同アルミ工場内に三協アルミのショールームオープン
  - 5月 ●【BCリーグ公式戦】「震災遺児育英支援試合」として三協立山  
グループ冠試合を開催

※三協・立山HD:三協・立山ホールディングス

### 三協立山グループ 「CSR報告書2013」を読んで

神戸大学大学院経営学研究科  
教授 國部 克彦



#### 事業活動を通じた環境貢献

三協立山グループはLife with Green Technologyをスローガンに掲げて、環境技術で豊かな暮らしを開くことを目的に活動されています。本報告書でも、この方針に沿って開発された多くの環境配慮型製品が紹介され、事業活動と環境貢献が結びついていることが理解できます。また、製品のユニバーサルデザインにも熱心に取り組まれていることも高く評価できます。一方で、三協立山グループの製造工程は、大量の水やエネルギーを使用するため、製造プロセスでの環境負荷削減にも積極的に取り組まれています。個別の目標を立てて詳細な情報開示をされていることから、環境管理活動が高いレベルにあることが推察できます。ただし、エネルギー、水の使用、廃棄物の発生については、オペレーションレベルの管理だけでは限界があるので、設備投資や生産工法の見直しのような抜本的な対策も同時に検討していく必要があるように思われます。

#### 地域に密着したCSR活動

三協立山グループは富山県に基盤を置く、地域密着型の企業なので、CSRにおいても地域への貢献が重視されています。今年度のトピックとしては、高岡市と「森づくり活動に関する協定」に調印したことが注目されます。それ以外にも多くの地域貢献活動が紹介されており、三協立山グループの地域貢献にかける意気込みが伝わってきます。CSRの世界では、CSV(Creating Shared Value)という概念があり、これは企業が他社や地域社会と協力して価値を創造していくことを示しています。三協立山グループが目指すべきは、このような地域社会に根差した価値創造であると思いますので、是非、今後も積極的に展開してほしいと、大いに期待しています。

#### マテリアリティを考える

CSRの世界で、最近最も話題になっていることのひとつにマテリアリティがあります。GRIの「サステナビリティ報告ガイドライン」も2013年度に改訂されてG4となり、マテリアリティのウェイトが高まっています。マテリアリティとは重要性という意味で、CSRにおいてマテリアルな課題を見つけて、それを中心にCSR活動を戦略と結び付けて、促進していくことが世界的に期待されています。三協立山グループのCSR活動についても、マテリアリティの観点から見直すことで、新たな発見や展開領域が見つかる可能性もあります。今後の発展を心から期待しています。

# 三協立山 会社概要

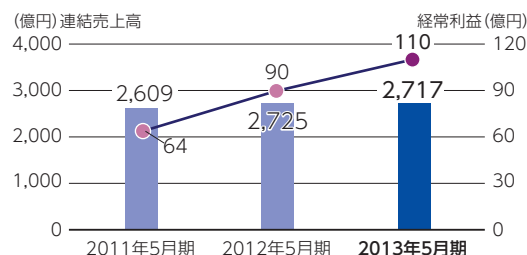
**会社名** 三協立山株式会社  
 (英文名称 Sankyo Tateyama, Inc.)  
**設立年月日** 1960年6月20日  
**所在地** 本社 富山県高岡市早川70番地  
 東京オフィス  
 東京都中野区中央1-38-1<住友中野坂上ビル20F>  
**代表者** 代表取締役会長 藤木 正和  
 代表取締役社長 山下 清胤  
**URL** <http://www.st-grp.co.jp/>

(2013年5月期)

**資本金** 150億円  
**従業員数** 5,857名  
**連結従業員数** 8,820名  
**連結売上高** 2,717億57百万円  
**経常利益** 110億09百万円  
**総資産** 2,165億45百万円  
**事業内容**

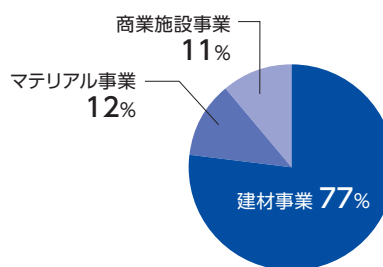
- 1.ビル用建材・住宅用建材・エクステリア建材の開発・製造・販売、アルミニウムおよびその他金属の圧延加工品の製造・販売
- 2.アルミニウムおよびマグネシウムの鋳造・押出・加工ならびにその販売
- 3.店舗用汎用陳列什器の販売、規格看板・その他看板の製造・販売、店舗および関連設備のメンテナンス

## 連結売上高および経常利益



※2012年5月期までは三協・立山ホールディングス株式会社の実績

## 事業別売上げ構成比 (2013年5月期)



### 三協立山株式会社

(2012年12月1日より)

#### 三協アルミ社<建材事業>

- **ビル建材**  
サッシ・ドア、カーテンウォール、改装、フロント、手すり、内外装建材、環境商品、その他
- **住宅建材**  
玄関ドア、窓、防犯配慮商品、インテリア建材、窓まわり商品、その他
- **エクステリア建材**  
門扉、フェンス、カーポート、テラス、サンルーム、サイクルポート、通路シェルター、その他

#### 三協マテリアル社<マテリアル事業>

- **アルミニウム、マグネシウムの鋳造・押出・加工**  
押出加工品採用実績：電気機器、輸送機器、産業機械、OA機器、土木・仮設資材、家具、福祉機材、その他  
.....  
鋳造：アルミニウム合金ピレット、マグネシウム合金ピレット

#### タテヤマアドバンス社<商業施設事業>

- **商業施設**  
汎用・専用什器、カウンター、ディスプレイ什器、その他
- **サイン**  
スタンドサイン、ファサードサイン、突出しサイン、大型サイン、壁面・吊下げサイン、掲示板、屋内外サイン
- **店舗メンテナンス**  
店舗メンテナンス、店舗リニューアル

2012年12月1日、三協立山と三協・立山ホールディングスは合併しました。

各事業が持つ、それぞれの優位性や戦略の独自性を維持しつつも、グループ全体の力を結集し、長期VISION-2020の達成を目指します。

合併

三協・立山ホールディングス株式会社

存続会社

三協立山株式会社

三協アルミ  
(建材事業)

三協マテリアル  
(マテリアル事業)

タテヤマアドバンス  
(商業施設事業)

三協立山株式会社 (三協立山として引き続き上場)



### シンボルマークについて

ハート型の葉を持つ新芽のマークは、覚えやすく親しみやすいかたちです。このマークを介して、お客様、お得意様、株主・投資家の皆様はもちろん、地域の方々や社員との良好なコミュニケーションを築けるように願っています。人と人、社会と企業というつながりをフリーハンドの曲線でやわらかく表現し、シンボル化しています。「社会と私たち」「お客様と私たち」「環境と私たち」…など“心と心をつなぐシンボル”として位置付けています。

### 「CSR報告書2013」の発行にあたって

三協立山グループでは、ステークホルダーの皆様への適切な情報開示を重要と考えています。

2001年に「環境報告書」として環境保全活動に関する情報開示をスタートしました。2005年からは「社会・環境報告書」として社会性に関する取り組みについても報告してきました。そして2007年からは、より自主的に社会的責任を果たしていく姿勢を明示し、タイトルを「CSR報告書」と改め、現在に至っています。

今回の報告書では2つの特集を設けました。

特集Ⅰでは、当グループが「長期VISION-2020」で掲げる「Life with Green Technology (環境技術でひらく、豊かな暮らし)」をテーマとし、低炭素社会構築を目指して、人々の豊かで健康的な暮らしづくりに貢献する、環境技術・商品を紹介しました。

特集Ⅱでは東京駅丸の内駅舎復原工事を採り上げ、歴史的価値のある建築物の復原における、当社の取り組みを報告しました。

なお、読みやすさへの配慮のためユニバーサルデザインフォントを使用しています。

### 対象期間

2012年6月1日から2013年5月31日

活動内容については、一部2011年度以前のもの、および2013年度のものも含まれます。

### 対象範囲

- 三協立山\*
  - [[旧三協・立山ホールディングス]
  - 三協アルミ社 [[旧三協立山アルミ]: 新湊工場、佐加野工場、福光工場、氷見工場、福岡工場、福野工場、射水工場]
  - 三協マテリアル社 [[旧三協マテリアル]: 高岡工場、石川工場、新湊東工場、奈呉工場]
  - タテヤマアドバンス社 [[旧タテヤマアドバンス]: 横浜工場、有磯工場]
- 関連会社:
  - ST物流サービス、協立アルミ、三協化成、三協工機、サンクリエイト、三精工業、STメタルズ

\*三協立山アルミ、三協マテリアル、タテヤマアドバンスは合併し2012年6月1日より三協立山株式会社となりました。

\*2012年12月、三協立山株式会社を存続会社として三協・立山ホールディングス株式会社を合併しました。

### 参考にしたガイドライン

- ・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- ・環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」
- ・GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006」

\*GRI(Global Reporting Initiative:企業サステナビリティ報告に関する国際的なガイドラインの作成とその普及を目的に1997年に設立された国際機関)



 三協立山株式会社

総務部 CSR・コンプライアンス推進課  
〒933-8610 富山県高岡市早川170番地  
電話 0766-20-2550 FAX 0766-20-2082  
ホームページアドレス <http://www.st-grp.co.jp/>